日本語学論説資料 第五〇号（平成二十五年分）

収録論文一覧

第一分冊（国語学一般・国語史）

一　国語学一般

日本語と日本文化のモノローグ的性格について　斎藤伸治　1
岩手大学人文社会科学部紀要　アルテスリベラレス　八九（二〇一一・一二）

明治時代における公用文リテラシーの形成　鹿島美千代　9
桜花学園大学人文学部研究紀要　CD-ROM版　一四（二〇一二・二）

言葉の「乱れ」をめぐる新聞記事の分析 ―ことばに関する新聞記事見出しデータベースから―　増田祥子　14
大阪府立大学言語文化学研究　言語情報編　七（二〇一二・三）

日本語の歴史的研究における「視座の転換」の可能性　福島直恭　22
学習院女子大学紀要　一五（二〇一三・三）

変わりゆく日本語、変わらない日本語　平田オリザ　29
高知大学留学生教育　七（二〇一三・三）

見えないものを見た人たち ―日本語史・日本語研究をふりかえって　付、表章先生の遺著について―　小池清治　一
国文学言語と文芸の会　国文学言語と文芸　一二八（二〇一三・三）

拝啓　新村出様　柳田国男書簡からみる民俗学史断章　菊地暁　一五
国立歴史民俗博物館研究報告　日本における民俗研究の形成と発展に関する基礎研究　一六五（二〇一一・三）

近代語現代語研究の動向　半藤英明　三二
全国大学国語国文学会　文学・語学　二〇三（二〇一一・七）

古典語研究の発展を期待して　山田昌裕　三四
全国大学国語国文学会　文学・語学　二〇六（二〇一二・七）

「国語」という概念 ―国語学（日本語学）と言語学との接点　柿木重宜　三六
全国大学国語国文学会　文学・語学　二〇八（二〇一三・七）

市区町村広報紙の副詞と用字　斎藤達哉　43
専修大学学会　専修人文論集　九〇（二〇一二・三）

中世以降の古記録の日本語学的研究　序説　後藤英次　三八
中京大学文学部紀要　四七-一（二〇一二・一〇）

排除と包摂 ―国学・国文学・芳賀矢一―　品田悦一　四九
東京大学国語国文学会　国語と国文学　八九-六（二〇一二・六）

「話言葉普及徹底ニ関スル件」大島郡教育会について　前田達朗　56
東京外国語大学国際日本研究センター　日本語・日本学研究　二（二〇一二・三）

国語学者三尾砂と日本語教育文法 ―『が』と『は』・動詞活用形・形容詞等を中心に―　姫野昌子　61
日中言語研究と日本語教育研究会　日中言語研究と日本語教育　六（二〇一三・一〇）

わが国における手話通訳者養成事業の実態と課題　霍間郁実　68
日本通訳翻訳学会　通訳翻訳研究　一三（二〇一三・一二）

日本のローマ字社　Rômazi no Nippon　659（二一・一）
日本のローマ字社　Rômazi no Nippon　660（二一・四）
日本のローマ字社　Rômazi no Nippon　660（二一・四）
日本のローマ字社　Rômazi no Nippon　661（二一・七）
日本のローマ字社　Rômazi no Nippon　661（二一・七）
日本のローマ字社　Rômazi no Nippon　662（二一・一〇）
日本のローマ字社　Rômazi no Nippon　664（二三・四）
日本のローマ字社　Rômazi no Nippon　664（二三・四）
一橋大学語学研究室　言語文化　四九（二二・二）
北海道文教大学論集　一四（二三・三）
三重大学教育学部研究紀要　六四（二三・三）
宮城学院女子大学キリスト教文化研究所　沖縄研究ノート　二一（二二・三）
立命館大学文学部人文学会　立命館文學　六二九（二二・二）
早稲田大学大学院文学研究科紀要　第一分冊　五七（二二・二）

二　国語史

愛知大学国文学　五二（二三・一）
愛知大学文学論叢　一四六（二二・七）
青山学院大学日本文学会　青山語文　四三（二三・三）
アクセント史資料研究会　論集　八（二二・二）
アクセント史資料研究会　論集　八（二二・二）
アクセント史資料研究会　論集　八（二二・二）
アクセント史資料研究会　論集　八（二二・二）
アクセント史資料研究会　論集　九（二三・二）
ローマ字は日本語普及の救世主　Takatori Yuki　77
宣教師ロプシャイトが見た日本と日本語　Teruyama Naoko　80
看護師・介護福祉士と日本語　―ＥＰＡに漢字の壁　半数以上が帰国　Rômazi no Nippon 編集部　85
通訳としてのロプシャイト　Teruyama Naoko　90
日本式ローマ字運動の旗をかかげて　インターネット「ローマ字ネットの会」がスタート　Shimizu-Masayuki　94
漢字にたよらない日本語へ　Nomura Masaaki　96
戦後の単独国語ローマ字教科書について　―公益財団法人教科書研究センター所蔵による―　茅島　篤　101
日本語改革運動の資料〔一〇〕「理學協會雑誌を羅馬字にて發兌するの發議及び羅馬字用法意見」　竹端　瞭一／解説　110
常用漢字表の改定がもつ意味　三枝　令子　113
改定常用漢字の高等学校国語科における教育に関する考察　―二〇一一（平成二三）年度の北海道を中心に―　矢部　玲子　120
「学年別漢字配当表」の字種をめぐって　―「環」、「尺」―　丹保　健一　127
服部四郎の来沖　―『服部四郎　沖縄調査日記』を読む―　今林　直樹　134
愛郷心教育の実践についての考察　―日本の地域言語政策の視点から―　原田　茜　142
ことばをめぐる問題の解決に向けた言語意識教育の可能性と課題　―言語的不公正の視点から―　黒川　悠輔　164
芝原春房問本居宣長答『萬葉集疑問』（二）　片山　武　五八
啓蒙思想と「国語」辞典（その三）　早川　勇　170
『三宝絵詞』東大寺切とその本文（五）　安田　尚道　六三
近世古今伝授資料における声点と胡麻章　坂本　清恵　六四
『名目抄』所載の漢字二字四拍の漢語に差された声点について　上野　和昭　七二
平声軽点の消滅過程について　―六声体系から四声体系への移行―　鈴木　豊　181
中世和化漢文資料に現れる漢語声点の揺れ　―『新猿楽記』弘安本・康永本・古抄本の比較から―　加藤　大鶴　192
後期咄本資料として見た三笑亭可楽の作品　―「新作おとしはなし」を中心に―　三原　裕子　202

茨城大学人文学部紀要　人文コミュニケーション学科論集　一四（二〇二・三）　櫻井豪人　214
大阪大学国語国文学会　語文　九九（二〇二・一二）　是澤範三　八三
大阪大学国語国文学会　語文　一〇〇・一〇一（二〇二・一二）　玉村禎郎　八八
大阪大谷大学日本語日本文学会　大阪大谷国文　四三（二〇二・三）　宇都宮啓吾　九四
大阪府立大学　言語文化学研究　日本語日本文学編　七（二〇二・三）　山東功　223
大妻女子大学草稿・テキスト研究所　研究所年報　五（二〇二・三）　木村一　233
学習院大学人文科学研究所　人文　一〇（二〇二・三）　あべせいや　255
川村学園女子大学研究紀要　二四―一（二〇二・三）　長崎靖子　267
九州大学国語国文学会　語文研究　一一三（二〇二・六）　蛭沼芽衣　275
京都大学文学部国語学国文学研究室　国語国文　八一―三（二〇二・三）　田中志瑞子　一〇三
京都大学文学部国語学国文学研究室　国語国文　八一―三（二〇二・三）　野上潤一　一二
京都大学文学部国語学国文学研究室　国語国文　八一―三（二〇二・三）　竹村明日香　283
京都大学文学部国語学国文学研究室　国語国文　八一―一一（二〇二・一一）　木田章義　二〇
京都大学文学部国語学国文学研究室　国語国文　八二―一（二〇二・一）　大槻信　森下真衣　小林雄一　二三
京都大学文学部国語学国文学研究室　国語国文　八二―二（二〇二・二）　中本茜　二三八
京都外国語大学研究論叢　七八（二〇二・一）　岡本信照／訳　296
京都外国語大学研究論叢　七九（二〇二・七）　岡本信照／訳　307
京都外国語大学・京都外国語短期大学研究論叢　八〇（二〇二・一）　岡本信照／訳　318
京都外国語大学・京都外国語短期大学研究論叢　八一（二〇二・七）　岡本信照／訳　329
京都産業大学論集　人文科学系列　四六（二〇二・三）　若井勲夫　一四九
京都女子大学国文学会　女子大国文　一五一（二〇二・九）　西崎亨　一六〇
京都女子大学大学院文学研究科研究紀要　国文論藻　一二（二〇二・三）　西崎亨　337

アーネスト・サトウ『会話篇』Part II 訳注稿（補遺）
國立臺灣大學圖書館藏圓威本『日本書紀』調査に関する覚書
文法化と認知的視点
訓点から見た坂東本『教行信証』の一側面
大槻以後　―学校国文法成立史研究―
一九世紀日本ミッションにおける日本語研究資料の草稿について
東アジア言語（日本語・中国語・朝鮮語）の南北方言の音韻対応から推定された紀元前約一万年前の「呼気量変化」（口腔鼻腔流出量比率変化）とその要因について
式亭三馬所蔵『まこと草』に関して―『片言』との比較を通して―
九州大学文学部蔵本『ぞき十二通切紙』の「連声」について
『尚書聴塵』における新注摂取の様相
清原宣賢抄物と『燈前夜話』―手控本生成の一端と講釈における利用をめぐって―
『日葡辞書』の開拗長音
上代特殊仮名遣と母音調和
『新撰字鏡』序文と『法琳別伝』
天草版『平家物語』とキリシタン版『太平記抜書』の編集態度―「前兆」等の取り上げ方をめぐって―
オヤングレン著『日本文典』（その3）
オヤングレン著『日本文典』（その4）
オヤングレン著『日本文典』（その5）
オヤングレン著『日本文典』（その6）
神護寺蔵「和気氏三幅対」の成立と訓釈
京都女子大学図書館蔵　施諸餓鬼飲食及水法平安後期点
京都女子大学図書館蔵谷山文庫本　『古今涇渭鈔』所載差声語索引稿

金城学院大学論集　人文科学編　九―二（二三・三）
言語と交流研究会　言語と交流　一六（二三・七）
神戸女子大学国文学会　神女大国文　二三（一二・三）
神戸女子大学国文学会　神女大国文　二四（一三・三）
國學院大學　國學院雑誌　一一二―一二（一一・一一）
國學院大學大学院紀要　文学研究科　四四（一三・三）
國學院大學院友学術振興会　新國學　四（一二・一〇）
國學院大學院友学術振興会　新國學　四（一二・一〇）
國學院大學院友学術振興会　新國學　四（一二・一〇）
國學院大學院友学術振興会　新國學　五（一三・一〇）
國學院大學院友学術振興会　新國學　五（一三・一〇）
国立国語研究所　国語研プロジェクトレビュー　四―一（一三・一〇）
静岡大学人文社会科学部社会学科・言語文化学科研究報告　人文論集　六三―一（一三・一）
島根大学法文学部紀要言語文化学科編　島大言語文化　三五（一三・一〇）
上智大学国文学会　国文学論集　四六（一三・一）
上智大学　ソフィア　五九―四（一二・一）
上代文学会　上代文学　一一〇（一三・四）
成城大学文芸学部　成城文芸　二三五（一三・一二）
聖心女子大学論叢　一二一（一三・七）
聖心女子大学大学院論集　三四―二（一二・一〇）
清泉女子大学紀要　六〇（一二・一二）
全国大学国語国文学会　文学・語学　二〇一（一二・三）
専修大学人文科学研究所月報　二六〇（一二・一）
専修大学人文科学研究所月報　二六四（一三・五）
専修大学日本語日本文学文化学会　専修国文　九三（一三・九）
B. Bloch の活用論の成立　―影響を与えた先駆者たち―　池田菜採子　356
別れの言葉に見る日本語あいさつの特徴　倉持益子　372
下掛り謡本における大夫系節付の問題　―成立時期とその背景―　松居郁子　一六八
一橋家鷹匠原田三野右衛門とその鷹書　―宮内庁書陵部所蔵鷹書・鷹詞の研究―　三保忠夫　一七四
日本語学習辞書史における船岡献治編纂『鮮訳国語大辞典』について　諸星美智直　一八二
松本亀次郎と松下大三郎の受身の論について　岡田誠　378
口語文法における「口語」とは何か　―日本語文体史と口語文法との関係―　浅川哲也　一九〇
大蔵虎明本自筆本の複製二種の本文の問題について　手坂凡子　一九九
日本文法史における活用形の名称の変遷について　―「命令形」の取り扱いとその周辺―　浅川哲也　二一一
石塚龍麿『仮名遣奥山路』上・東大蔵橋本進吉写本（翻刻）　竹部歩美　*
日本語文法史研究の射程　青木博史　391
仮名・分化の軌跡　―「難波津」「安積山」の歌から文字列の「阿女都干」へ―　勝山幸人　二二四
丹羽正伯の『庶物類纂』編集と「産物帳」　田籠博　二三五
黎明期の日本語書記言語と漢文　Aldo Tollini　394
ロドリゲス『日本大文典』の謎　鰍澤千鶴　二四一
文字表現から観た『日本書紀』の成立　森博達　二四八
陳述のゆくえ　―辞苑閑話・三―　工藤力男　二五五
文法制度化　―文法変化の種類（Ⅱ）―　小柳智一　401
江戸時代の蘭語学に見られる格理解　―吉雄俊蔵『六格前篇』について―　服部紀子　412
「和訓」という学術用語　―『萬葉集』の「風流士」　―訓点史の再考から―　今野真二　二六一
橋本進吉の講義「国語法概論」の筆記（1）　池原陽斉　二六八
橋本進吉の講義「国語法概論」の筆記（2）　鈴木泰　424
『西国立志編』解題・第十二編本文及び語彙索引稿　鈴木丹士郎　447
松本守　*

大正大学国文学会　国文学踏査　二四（二二・三）　近現代国語辞典の軌跡　倉島節尚　二七五

千葉大学文学部日本文化学会　語文論叢　二七（二二・七）　『潮来婦志』の資料性　岡田一祐　二八五

中部大学　人文学部研究論集　二九（二三・一）　先史アジア語とその残影（5）　近藤健二　475

中部大学　人文学部研究論集　三〇（二三・七）　先史アジア語とその残影（6）　近藤健二　495

鶴見大学紀要　第一部　日本語・日本文学編　四九（二二・三）　西念寺本類聚名義抄における増補と脱漏―異本注記の有無について―（五）　小林恭治　二九三

鶴見大学紀要　第一部　日本語・日本文学編　五〇（二三・三）　西念寺本類聚名義抄における増補と脱漏―異本注記の有無について―（七）　小林恭治　三〇三

帝塚山学院大学研究論集　リベラルアーツ学部　四八（二三・一二）　ケリ読み添え箇所の訓法一致率による法華経諸本の分類　加藤浩司　三一五

（第一分冊増刊に続く）

＊……論説資料のページ数の制約により、掲載できなかった長大な論文

第一分冊増刊（国語史・文字・表記）

一　国語史（承前）

東海学園大学日本文化学会　言語・文学・文化　一二（一三・三）　東海学園

東京大学言語学論集　三二（一二・九）

東京大学言語学論集　三四（一三・九）

東京学芸大学国語国文学会　学芸国語国文学　四五（一三・三）

東京都立大学国語国文学会　都大論究　五〇（一三・六）

同志社女子大学日本語日本文学　二五（一三・六）

同志社女子大学大学院文学研究科紀要　一三（一三・三）

南山大学日本文化学科論集　一三（一三・三）

新潟大学　人文科学研究　一三一（一二・一二）

二松学舎大学日本漢文教育研究プログラム　日本漢文学研究　七（一二・三）

日本のローマ字社　Rômazi no Nippon 659（一二・一）

比治山大学現代文化学部紀要　一九（一三・三）

弘前大学教育学部紀要　一〇七（一二・三）

弘前大学教育学部紀要　一〇七（一二・三）

弘前大学国語国文学　三四（一三・三）

弘前学院大学文学部紀要　四九（一三・三）

広島大学大学院　論叢　国語教育学　復刊三（一二・七）

佛教大学　仏教学部論集　九七（一三・三）

文献探究の会　文献探究　五〇（一二・三）

北海道教育大学札幌校国語学第二研究室　イソップ資料　三（一三・三）

北海道教育大学札幌校国語学第二研究室　イソップ資料　三（一三・三）

校本詩学大成抄（一）　小林幸夫　一

『英和対訳袖珍辞書』の構成法の考察　松尾肇子　大島絵莉香

『諳厄利亜語林大成』と『英和対訳袖珍辞書』に見る黎明半世紀の英学の進展　三好彰　1

言語変化の段階と要因　三好彰　10

日本語史における「現代語」とは何か　―日本語史の時代区分についての一提言―　小柳智一　18

『和漢朗詠集』古鈔本の注記札記について　―専修大学本・天理図書館本を中心に―　浅川哲也　二〇

玫瑰誌　―西洋文化の表象としての―　稲垣信子　二六

Essence of Rodrigues' grammatical view of the Japanese language　―Representative extracts from the *Arte Breve* and the *Arte [Grande]* by Father João Rodrigues, with explanatory annotations and interpretations―[1]　吉野政治　三三

平曲の声・息継ぎの伝授　Toru MARUYAMA　J.Patrick BARRON　24

清原宣賢『大学聴塵』字音注　鈴木孝庸　四四

南部義籌と大庭雪斎　―『譯和蘭文語』を中心として―　佐藤進　五七

平家物語における「ほこる」と「おごる」　―覚一本・延慶本を中心に―　Simizu-Masayuki　32

酒田市立光丘文庫所蔵の往来物資料　―目的と出版地からの分類分析―　土居裕美子　六四

高山寺本『荘子』の漢字音　郡千寿子　37

副詞の歴史的研究における課題と可能性　石山裕慈　40

「月ヶ瀬本仮名書き法華経」解説並びに翻字（三）　川瀬卓　44

清原宣賢自筆『日本書紀抄』（後抄本）の漢字音　―本文と注釈との比較から―　野澤勝夫　七〇

『漢字三音考』　―本居宣長の言語観―　坂水貴司　七七

異言語接触と日本語文法史　田山令史　八二

幕末、明治初期の新聞に掲載されたイソップ寓話　―『万国新聞(紙)』『中外新聞』『遠近新聞』―　青木博史　54

改訂版：ロドリゲス『日本大文典』中のイソップ寓話からの引用　―『エソポのハブラス』『伊曽保物語』との対比―　吉見孝夫　62

吉見孝夫他三名　82

万葉学会　万葉　二二四（一三・三）
三重大学人文学部文化学科研究紀要　人文論叢　二九（一二・三）
三重大学　日本語学文学　二四（一三・六）
武蔵大学人文学会雑誌　四四―四（一三・三）
明治学院大学言語文化研究所　言語文化　二九（一二・三）
山梨大学教育人間科学部紀要　ＣＤ－ＲＯＭ版　一三（一二・三）
立教大学日本文学　一〇九（一三・一）
立命館大学日本文学会　論究日本文学　九八（一三・五）
立命館大学文学部人文学会　立命館文學　六三〇（一三・三）
早稲田大学国文学会　国文学研究　一七〇（一三・六）
被覆形による複合・派生の再考察　―形容詞被覆形の想定―　蜂矢真弓　九〇
コリャード『羅西日辞書』諸本の異同　―ローマ、ヴァチカンにおける調査を中心に―　川口敦子　91
コリャード『羅西日辞書』諸本の異同（二）　―国内諸本など―　川口敦子　95
洒落本における会話のストラテジー　―山東京伝『傾城買四十八手』を資料にして―　小川栄一　100
ヘボン塾と明治の讃美歌　手代木俊一　九九
契沖における仮名遣論の展開　―『萬葉代匠記』から『和字正濫鈔』へ―　長谷川千秋　**一〇七**
賀茂真淵自筆草稿『西かへり』の解題と翻刻　高松亮太　**一一三**
越境者たちの方言誌　―その日本語史への寄与―　彦坂佳宣　**一一九**
近世中頃の中国地方山間部における尊敬語辞類　―『石見方言茶話』の模様と日本語史における位置―　彦坂佳宣　115
明治期の漢語理解　今野真二　**一二九**

二　文字・表記

愛知県立大学　説林　六一（一三・三）
アクセント史資料研究会　論集　八（一二・二）
アクセント史資料研究会　論集　九（一三・二）
大阪大学国語国文学会　語文　九九（一二・二）
大阪大学大学院文学研究科　待兼山論叢　四七　文学篇（一三・一）
大阪市立大学国語国文学研究室文学史研究会　文学史研究　五二（一二・三）
お茶の水女子大学国語国文学会　国文　一一八（一二・一二）
学習院大学文学部研究年報　五七（一一・三）
九州産業大学国際文化学部紀要　五五（一三・九）
京都大学文学部国語学国文学研究室　国語国文　八二・四（一三・四）
京都外国語大学研究論叢　七九（一二・七）
京都女子大学国文学会　女子大国文　一五一（一三・一）
杏林大学外国語学部紀要　二五（一三・三）
漢字で日本語の物語をつづるための技術　～太安萬侶たちの工夫～　犬飼隆　**一三四**
仮名の呼称　―現代の『を』の場合―　佐藤栄作　120
字体とその示し方　佐藤栄作　128
Ｄ・コリャード著『さんげろく』の〝～〟　山田昇平　136
人物呼称の表記の考察　―村上春樹とその翻訳作品を中心に―　越野優子　144
二合仮名の定位　尾山慎　**一四一**
『安愚楽鍋』における振り仮名の研究　石井久美子　**一四九**
中国戦国時期青銅器銘文の史料化に関する一試論　―三晋紀年銅器銘文の字形分析を中心に―　下田誠　**一五四**
伝錦小路本『古文孝経』隷定古文並異体字疏証（三）　―字形からみた鈔写の伝承性の検討―　石川泰成　**一七三**
擬定家本の定家仮名づかい　―親本（資経本）から改訂された表記―　遠藤邦基　**一八四**
続・汝の名はかくして変わる　―「表意」の神話、「表音」の虚構　朱一星　152
播磨極楽寺出土瓦経の篦書き文字　―筆順と文字の理解度・習熟度―　西崎亨　**一九三**
同字異訓　玉村禎郎　159

熊本大学文学部国語国文学会　国語国文学研究　四八（一三・一）
久留米大学文学部紀要　情報社会学科編　七（一二・三）
群馬県立女子大学国文学研究　三一（一二・三）
國學院大學　國學院雑誌　一一二－一一（一一・一一）
國學院大學　國學院雑誌　一一三－一一（一二・一一）
國學院大學　國學院雑誌　一一四－三（一三・三）
國學院大學　國學院雑誌　一一四－一一（一三・一一）
国文学言語と文芸の会　国文学言語と文芸　一二八（一二・三）
国立国語研究所論集　六（一三・一一）
駒澤大學　駒澤國文　四九（一二・二）
静岡県立大学短期大学部言語文化学会　言語文化研究　一二（一三・三）
実践国文学会　実践国文学　八二（一二・一〇）
上代文学会　上代文学　一一一（一三・一一）
上智大学国文学科紀要　二九（一二・三）
上智大学国文学会　国文学論集　四六（一三・一）
信州大学人文学部　人文科学論集　文化コミュニケーション学科編　四六（一二・三）
信州大学人文学部　人文科学論集　文化コミュニケーション学科編　四七（一三・三）
清泉女子大学紀要　六〇（一二・一二）
全国大学国語国文学会　文学・語学　二〇一（一二・三）
専修大学学会　専修人文論集　九〇（一二・三）
中京大学文学会　中京国文学　三一（一二・三）
朝鮮学会　朝鮮学報　二三一（一二・三）
東海学園大学日本文化学会　東海学園言語・文学・文化　一一（一二・三）
東京大学言語学論集　三四（一三・九）

『万葉集』における無表記形態の諸要因について　藤本憲信　二〇四
外国人著者名の典拠データについて　遠山潤　170
上代木簡に見る地名表記法の変遷　北川和秀　二一二
『古事記』における熟字の選択　―単漢字との関係を中心に―　奥田俊博　二三五
臣、連、伴造・國造の文字選定をめぐって　―その豫備的考察―　嵐義人　＊＊＊
日本語の表記における「仮名遣い」　今野真二　二三二
まだまだあるある日本語文の表記法　―和漢混淆文成立の周辺―　三角洋一　二四〇
万葉集は大伴家持が編纂した(Ⅲ)　―作歌の表記時期と短歌の階段―　中村昭　二四七
米国議会図書館蔵『源氏物語』について　―書誌と表記の特徴―　高田智和　斎藤達哉　二六三
俳諧作品における西鶴の用字　伴野英一　二七五
『尋常小学読本』の仮名遣い　中野真樹　181
日本語学の研究を英語論文の参考文献欄に書く場合その二　―名前の書き方と四つ仮名―　福嶋健伸　他四名　186
地名一字表記化をめぐって　北川和秀　二八二
記紀歌謡の原表記　瀬間正之　二九〇
コリャード『懺悔録』の表記の特質　―イエズス会資料との差異　岩澤克　三〇二
キリシタン版の原語にみる仮名用字法の意識　―活字本と写本の比較から―　白井純　189
書記用語「万葉仮名」をめぐって　山田健三　194
作り物語における片仮名の和歌　―「虫愛づる姫君」を中心に―　今野真二　藤井由紀子　三一二
森田草平『輪廻』伏字表記考　―戦前期検閲作品の差別用語問題―　牧義之　三一〇
新聞折込広告のキャッチコピーにおける句読点使用について　―都内二地点の新築分譲マンション広告の比較から―　宮嵜由美　202
明朝体と手書き文字の差　研山勇人　三一五
一八世紀日本の韓国語学習書における「ツ」の表記　―雨森芳洲の『全一道人』を中心として―　李在鏞　210
『女庭訓往来』と『頭書絵抄　和漢女礼式　女庭訓御所文庫』　―漢字使用状態から―　三宅ちぐさ　218
Newly-Discovered Okinawan *Sūchūma* Tally Sticks Containing Pictographs　Mark ROSA　223

東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻紀要 Language, Information, Text 19（二〇一二・一二）
東京学芸大学紀要 人文社会科学系一六三（二〇一二・一）
東京学芸大学紀要 人文社会科学系一六四（二〇一三・一）
東京学芸大学国語国文学会 学芸国語国文学 四五（二〇一三・二）
東京国際大学論叢 人間社会学部編一七（二〇一一・九）
東京女子大學日本文學 一〇九（二〇一三・二）
同志社大学国文学会 同志社国文学七八（二〇一三・三）
徳島文理大学 比較文化研究所年報二九（二〇一三・三）
奈良女子大学日本アジア言語文化学会叙説 三八（二〇一一・三）
奈良女子大学日本アジア言語文化学会叙説 四〇（二〇一三・三）
奈良女子大学日本アジア言語文化学会叙説 四〇（二〇一三・三）
日本語学研究と資料の会 日本語学 研究と資料 三六（二〇一三・三）
日本大学大学院国文学専攻論集 一〇（二〇一三・九）
日本読書学会 読書科学 五四-三・四（二〇一一・七）
日本のローマ字社 Rômazi no Nippon 659（二〇一一・一）
日本のローマ字社 Rômazi no Nippon 659（二〇一一・一）
日本のローマ字社 Rômazi no Nippon 660（二〇一一・四）
日本のローマ字社 Rômazi no Nippon 661（二〇一一・七）
日本のローマ字社 Rômazi no Nippon 662（二〇一一・一〇）
日本のローマ字社 Rômazi no Nippon 662（二〇一一・一〇）
日本のローマ字社 Rômazi no Nippon 662（二〇一一・一〇）
日本のローマ字社 Rômazi no Nippon 663（二〇一二・一）
日本のローマ字社 Rômazi no Nippon 663（二〇一二・一）
日本のローマ字社 Rômazi no Nippon 664（二〇一二・四）

字体選好の地域差に関する計量的研究 横山詔一 228
「当て字」の現代用法について 白勢彩子 235
真福寺資料に見られる漢字の通用現象について 其の二 高橋久子 三一九
古記録から見た中国と日本の漢字通用現象 于文秀 ※※※
和語・漢語がカタカナがきされるばあい 花田康紀 238
漢字用法の史的研究 ―仮名書状を視点として― 髙橋美咲 三三八
万葉集における仮名と漢字 石井久雄 244
「著」と「着」との区別について ―〈節用集〉を中心として― 青木毅 三五三
田辺福麻呂歌集歌の用字と表現 奥村和美 三六〇
使用頻度からみた十巻本『歌合』の用字法 長谷川千秋 三六八
一六二七年の殉教報告書の写本二種に見えるローマ字表記 川口敦子 三七六
万葉仮名字母の使用に影響を与える表記環境 澤崎文 三八三
後鳥羽院筆「熊野懐紙」の字母について 吉田智美 三九〇
ひらがな文字の形態的類似性評定調査 川上正浩・辻弘美 251
「日本語海外普及に関する協議会」（一九三七－一九三八年）の議論に現れたローマ字論 Maeda Hitosi 255
Nippongo to Kanzi〈Sono 5〉 法語は摩訶不可思議《ほうごは まかふしぎ》 Takeba Ryôiti 259
Nippongo to Kanzi〈Sono 6〉 天神様の細道ちゃ《平安時代の漢語文化》 Takeba Ryôiti 262
Nippongo to Kanzi〈Sono 7〉 漢字から草（sô）のかなへ《貫之・道風・佐理・行成》 Takeba Ryôiti 265
日本語の将来とローマ字 茅島篤 268
Nippongo to Kanzi〈Sono 8〉 かなの花さくとき《平安の草のかな》 Takeba Ryôiti 271
資（史）料 福沢諭吉編『文字之教』一八七三年 Takeba Ryôiti 274
音韻論とローマ字つづり 第一回 音韻論ができるまえ Simizu-Masayuki 279
Nippongo to Kanzi〈Sono 9〉 支え合うかなと漢字《和漢混淆文の発達》 Takeba Ryôiti 285
奈良文化財研究所編『日本古代木簡字典』からみた漢字 Iwabuti Tadasu 287

日本のローマ字社　Rômazi no Nippon 664（一三・四）
日本のローマ字社　Rômazi no Nippon 665（一三・一〇）
日本文芸研究会　文芸研究―文芸・言語・思想―　一七五（一三・三）
広島大学教育学部国語教育会　国語教育研究　五三（一二・三）
広島大学大学院　論叢　国語教育学　復刊四（一三・七）
広島文教女子大学国文学会　文教国文学　五七（一三・二）
福岡教育大学紀要　第一分冊　文科編　六二（一三・二）
福岡教育大学国語科研究論集　五四（一三・三）
北海学園大学学術研究会　学園論集　一五三（一二・九）
北海道大学国語国文学会　国語国文研究　一四一（一三・一）
北海道教育大学語学文学会　語学文学　五〇（一二・三）
万葉学会　万葉　二一五（一三・九）
明治大学大学院　文学研究論集　三八（一三・二）
山形県立米沢女子短期大学国語国文学会　米沢国語国文　四一（一二・一一）
立教大学日本学研究所年報　九（一二・三）
立教大学日本学研究所年報　一〇・一一（一三・七）
立命館大学　立命館白川静記念東洋文字文化研究所紀要　七（一三・七）
立命館大学日本文学会　論究日本文学　九六（一二・五）
立命館大学文学部人文学会　立命館文學　六三〇（一三・三）
立命館大学文学部人文学会　立命館文學　六三三（一三・一一）
琉球大学法文学部紀要　日本東洋文化論集　一九（一三・三）
早稲田大学国文学会　国文学研究　一六八（一二・一〇）

音韻論とローマ字つづり（二）　―一字一音素の原理　Simizu-Masayuki　291
世にいわれる「正しい書き順」　岩淵　匡　297
近代教育漢字字体資料の分類　山下真里　300
龍谷大学蔵『黒谷上人語燈録』（〇二一－二三四－七）における畳字について　瀬古淳祐　**四〇一**
御物本『更級日記』の仮名字体について　佐々木　勇　**四〇六**
東京大学史料編纂所本『加州官地論』について―表記から見た諸本の関係性―　橋村勝明　**四〇九**
『絵入源氏』三種類の字母　―「桐壺」巻から―　沼尻利通　**四一五**
『絵入源氏』三種類の本文表記　―「桐壺」巻から―　沼尻利通　**四二一**
Rômazi Nihongo-bun no *či* to *ču* no čuzuri-kata　KIRIKAE Hideo　307
江戸期のいろは仮名　岡田一祐　**四二九**
万葉集の表記における選字意識　伊藤一男　**四三五**
古風土記の地名表記と和銅官命　橋本雅之　**四四〇**
橋本進吉の文字論　ショーン・ニコルソン　**四四七**
国語教材としての新聞活用事例とその課題～常用漢字表（平成二二年内閣告示第二号）と新聞報道をめぐって～　髙橋永行　315
連歌における〈つ〉の仮名表記　岡田　薫　329
『仮名文字遣』の促音および t 入声の仮名表記　岡田　薫　**四五五**
古今和歌集元永本の周辺における漢字　石井久雄　339
『航米日録』巻一～巻五の漢字について　浅野敏彦　350
『航米日録』の外国地名表記　湯浅彩央　**四六八**
日本語の用字用語　児玉徳美　355
万葉仮名の前と後　上村幸雄　365
『万葉集』の訓字主体表記に見える二種の仮名―表記環境による字母の違い―　澤崎　文　**四七四**

＊＊＊……著作権者と連絡がとれなかったため紹介にとどめた論文

第二分冊（文法）

文　法

愛知大学語学教育研究室紀要　言語と文化　二八（二〇一三・一）

愛知大学国文学　五二（二〇一三・一）

愛知大学文学論叢　一四六（二〇一二・七）

愛知教育大学国語国文学研究室　国語国文学報　七〇（二〇一二・三）

愛知教育大学国語国文学研究室　国語国文学報　七〇（二〇一二・三）

愛知教育大学大学院国語研究　二一（二〇一三・三）

愛知県立大学外国語学部　言語・文学編　紀要　四五（二〇一三・三）

愛知淑徳大学言語コミュニケーション学会　言語文化　二〇（二〇一二・三）

愛知淑徳大学言語コミュニケーション学会　言語文化　二〇（二〇一二・三）

愛知淑徳大学論集　グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科篇　一（〇九・三）

青山学院大学日本文学会　青山語文　四二（二〇一二・三）

青山学院大学日本文学会　青山語文　四二（二〇一二・三）

茨城大学留学生センター紀要　一一（二〇一三・三）

上田女子短期大学紀要　三五（二〇一二・一）

桜美林大学　桜美林論考　言語文化研究　四（二〇一三・三）

桜美林大学言語教育研究所　桜美林言語教育論叢　九（二〇一三・三）

桜美林大学大学院言語教育研究科　言語教育研究　三（二〇一三・三）

大分大学　国語の研究　三八（二〇一三・三）

大阪大学国語国文学会　語文　九九（二〇一二・一二）

大阪大学古代中世文学研究会　詞林　五二（二〇一二・一〇）

大阪大学世界言語研究センター論集　七（二〇一二・三）

大阪大学日本語日本文化教育センター　日本語・日本文化　三八（二〇一二・三）

物語論における人称の意味　認知的談話構築の観点から　山本雅子　1

接続詞「および」の解釈　久野かおる　10

古代語・現代語の複合形容詞の比較　―名詞＋形容詞の複合形容詞の場合―　漆谷広樹　17

『在京日記』における係り結びと連体形終止　高瀬正一　30

条件表現史上における原因理由文の変化の意味　矢島正浩　36

「語の安定化」と二段活用の一段化　佐々木淳志　49

The Intervention Effect as a Syntactic Phenomenon in Japanese　Hisashi MORITA　57

日本語主語の復権　―日本語助辞「は」の職能（二）―　山内啓介　74

源氏物語「若菜」巻における格助詞「の」の一用法　三鳥川幸治　82

日本語助辞「は」の職能　山内啓介　87

古典語に見られる〈名詞句＋副助詞〉の格　山田昌裕　一

アスペクトの情報伝達機能　―「タ」形と「テイル」形を中心に―　孫敦夫　六

引用述語の現れない発話・思考報告文　―「省略」か「構文」か　大島デイヴィッド義和　95

Scrambling and the Structure of TP: Remarks on Miyagawa (2001)　Mizuguchi Manabu　103

直接引用形式を前項に持つ複合名詞「～状態」をめぐって　新屋映子　東條和子　108

日本語の無主語文をめぐって　新屋映子　115

範疇横断的研究　―「固体的範疇」と「液体的範疇」―　山岡洋　122

比況の副詞の位置　中川祐治　128

日本語の疑問詞疑問文と「の」の有無　金水敏　133

中古・中世における作成動詞・入手動詞　―受益者の格標示をめぐって―　森勇太　一三

全てのヲは格助詞か　中尾有岐　139

毛能波と氏尓乎　蔦清行　一九

大阪大学日本語日本文化教育センター　日本語・日本文化　三八（二〇・三）
大阪大学大学院文学研究科紀要　五三（二三・三）
大阪大学大学院文学研究科　待兼山論叢　四六　日本学篇（二二・一二）
大阪大学大学院文学研究科　待兼山論叢　四六　文学篇（二二・一二）
大阪大谷大学日本語日本文学会　大阪大谷国文　四二（二二・三）
大阪国際大学　国際研究論叢　二五－二（二一・一）
大阪国際大学　国際研究論叢　二六－一（二一・一〇）
岡山大学言語国語国文学会　岡大国文論稿　四〇（二一・三）
お茶の水女子大学人文科学研究　九（二三・三）
香川大学教育学部研究報告　第一部　一三九（二三・三）
香川大学教育学部研究報告　第一部　一四〇（二三・九）
学習院大学人文科学研究所　人文　一〇（二一・三）
学習院大学人文科学論集　二一（二一・一〇）
学習院大学文学部研究年報　五八（二一・三）
神奈川大学言語研究　三四（二一・三）
関西外国語大学研究論集　九七（二三・三）
神田外語大学言語科学研究センター　Scientific Approaches to Language　11（二一・三）
神田外語大学言語科学研究センター　Scientific Approaches to Language　11（二一・三）
北九州市立大学文学部紀要　八一（二一・三）
北九州市立大学文学部紀要　八二（二三・三）
岐阜大学国語国文学　三九（二三・三）
岐阜大学留学生センター紀要（二一・三）
岐阜聖徳学園大学国語国文学　三二（二三・三）

助詞「に」の統語的性質について　―補文化辞の観点から―　荘司育子　146
非意図的な出来事と「損失構文」―使役構文との相違について―　鄭聖汝　156
現代日本語における「人がある」存在文の成立条件　鄭聖汝・黒川尚彦　165
An Argument for the Movement Analysis of *SHIKA*-NPI Licensing in Japanese　Maiko YAMAGUCHI　176
「注文の多い料理店」小考　―「数量詞＋も＋仮定節」「数量詞＋だけ」の表現性から―　大槻美智子　188
今昔物語集の形容詞の体系性　―中古資料との比較を交えつつ―　村田菜穂子　196
主部内在型関係節の成立条件についての一考察　伊藤創　203
中世末～近世期口語資料におけるモシ疑問文・推量文の文型と意味　康雯琪　213
Some Notes on Verbal Reflexives in Japanese　Tohru Noguchi　221
続古事談における希望表現について　―古事談との比較を兼ねて―　柴田昭二・連仲友　二七
江談抄における希望表現について　柴田昭二・連仲友　三〇
二つの目的語をもつ上代語の構文　―助詞「を」の機能―　佐佐木隆　三四
感情形容詞の副詞的用法について　村上佳恵　229
時間節および時間句「時」「頃」の用法　前田直子　245
On Some Differences between Restrictive and Nonrestrictive Relative Clauses and the Parallelism between Head-Internal and Head-External Relative Clauses in Japanese　Hiromi Sato　251
「ような」と「ように」の交替　―名詞句「N1のようなXなN2」における―　光信仁美　268
独立文の条件再考　井上和子　277
状態変化を表す軽動詞「する」：「AをBにする」構文の統語分析　山田昌史　286
上代語における係助詞カの振る舞い　―係助詞ヤとの比較を通して―　堀尾香代子　297
上代語にみるヤによる係り結びの異型　堀尾香代子　305
ヲ格とニ格のゆらぎ　山田敏弘　310
「感情表現＋ことに」の周辺（二）　加藤由紀子　315
『教訓近道』の疑問表現　―『伊曽保物語』との比較を通して―　濱千代いづみ　319

九州大学大学院　文学研究　一〇九（二二・二）
九州大学大学院　文学研究　一一〇（二三・二）
京都大学言語学研究　三一（二二・一二）
京都大学文学部国語学国文学研究室　国語国文　八一―九（二二・九）
京都大学文学部国語学国文学研究室　国語国文　八一―一〇（二二・一〇）
京都産業大学論集　人文科学系列　四六（二三・二）
京都橘大学研究紀要　三八（二二・一）
共立女子大学国際学部　共立国際研究　二九（二二・三）
共立女子大学国際学部　共立国際研究　三〇（二三・三）
杏林大学外国語学部紀要　二四（二二・三）
熊本大学文学部国語国文学会　国語国文学研究　四七（二二・二）
熊本県立大学大学院文学研究科論集　五（二二・九）
群馬大学語文学会　語学と文学　四八（二二・三）
慶應義塾大学言語文化研究所紀要　四四（二三・三）
言語と交流研究会　言語と交流　一六（二三・七）
甲南大学紀要　文学編　一六三（二三・三）
甲南女子大学国文学会　甲南国文　六〇（二三・三）
神戸大学大学院　神戸言語学論叢　八（二二・三）
神戸市外国語大学研究会　神戸外大論叢　六三・二（二三・三）
神戸市外国語大学研究科論集　一六（二三・七）
神戸松蔭女子学院大学　Theoretical and Applied Linguistics at Kobe Shoin (TALKS) 16（二三・二）
神戸女子大学国文学会　神女大国文　二四（二三・三）
神戸山手大学紀要　一四（二二・一二）
國學院大學　國學院雑誌　一一四―六（二三・六）

機能拡張モデルと言語運用の要請　―問返し疑問の応答に関する覚書―　稲田俊明　325
日本語における自動詞と名詞句の結合違反について　―評定値実験の結果を基に―　坂本勉　**
ニヨッテ受動文についての一考察　―ニ・ニヨッテ受動文の統一的な分析に向けて―　Rudy Toet　336
不変化助動詞の本質、続貂　大木一夫　四六
ロドリゲス大文典における「同格構成」と「異格構成」について　小鹿原敏夫　351
日本語の遠近を表す形容詞「近い・遠い」と格助詞「に・から」　平塚徹　360
命令・意志を表す名詞文についての覚書　中﨑崇　369
「といえば」の主題提示用法　小関智子　379
名詞述語文「AはBだ」の種類と使用比率　佐藤雄一　389
On the Japanese Right Periphery　Daisuke INAGAKI　398
いわゆる「気づきの『けり』」再考　―その諸相、および他の諸用法の中での位置づけをめぐって―　坂田一浩　五五
命令文の基本的機能　佐藤友哉　六三
並立助詞と共起するナンド・ナド　小林正行　414
Indirect Passives and Relational Nouns (II)　Takashi Iida　419
生理的境界点・閾値と局面変化完了認知基「タ」の関係　関口美緒　431
事象キャンセル可能性についての質問紙調査　―その詳細データ―　青木奈律乃　中谷健太郎　438
「源氏物語」での「けるかな」の用例の検討　―「詠嘆」の表現を考える一助として―　西田隆政　447
THE GENESIS OF THE JAPANESE GRAMMATICAL MARKER *NAI*　Hideki Kishimoto　452
現代日本語の主題に現れうる名詞句についての覚書　福田嘉一郎　462
「ラレテイル」の文の動作主不表示　―「ラレテイル」のアスペクト的意味と動作主の指示特性からの分析―　李藝　465
現行法令におけるサ変動詞五段化・上一段化現象の言語内的要因　松田謙次郎　472
動詞の否定中止形ナクの使用状況と成立背景　船木（橋本）礼子　478
日本語の補足節と代用形　―引用節とその周辺―　阿部忍　488
源氏物語における敬語「御」の用法　高桑恵子　七一

國學院大學　國學院雑誌　一一四－一二（一三・一一）
國學院大學日本語教育研究　三（一一・三）
国立国語研究所　国語研プロジェクトレビュー　四－一（一三・一〇）
国立国語研究所論集　四（一二・一一）
埼玉大学紀要　教養学部　四八－二（一三・二）
埼玉大学紀要　教養学部　四八－一（一三・二）
四国大学紀要　A人文・社会科学編　B自然科学編　A三七・B三四（一二・三）
四国大学紀要　A人文・社会科学編　B自然科学編　A三八・B三五（一二・一二）
四国大学紀要　A人文・社会科学編　B自然科学編　A三九・B三六（一三・三）
島根大学　島大言語文化　三三（一一・一〇）
下関市立大学論集　五七－一（一三・五）
首都大学東京・東京都立大学　人文学報　四六一（一一・三）
上智大学国文学会　国文学論集　四五（一一・一）
上智大学国文学会　国文学論集　四六（一三・一）
信州大学国語教育学会　信大国語教育二二（一三・三）
信州大学人文学部　人文科学論集　文化コミュニケーション学科編　四六（一二・三）
信州大学人文学部　人文科学論集　文化コミュニケーション学科編　四七（一三・三）
信州大学人文社会科学研究　五（一一・三）
成蹊大学一般研究報告　四七－七（一三・一一）
成蹊大学　成蹊国文　四五（一二・三）
成蹊大学大学院　成蹊人文研究　二二（一三・三）
清泉女子大学人文科学研究所紀要　三四（一三・三）
専修大学学会　専修人文論集　九一（一二・一〇）

日本国憲法の「は」と、その構文　中村幸弘　七七
「受身動詞」と「使役動詞」の定義について　岡田誠　493
複文構文プロジェクトにおけるいくつかの話題　益岡隆志　498
節連接マーカーにおける動詞の活用形とモダリティ　角田三枝　502
現代日本語の動詞「詰める」「覆う」の分析 ―格体制の交替の観点から―　川野靖子　517
The Resolution of Ambiguities in Coordinate Noun Phrase Structures in Japanese: a corpus-based study　Nobuhiko YAMANAKA　523
太宰治『晩年』の副助詞バカリとダケ ―堀辰雄二作品との対比を兼ねて―　田中敏生　八三
『古今和歌集』の副助詞ダニ ―〈相対的軽少性〉の意義をめぐって―　田中敏生　九五
『後撰和歌集』の副助詞サヘ ―平安朝和歌における〈周縁波及性〉の意義の一確認―　田中敏生　一〇一
MODALITY AND A CASE MARKING CONSTRAINT IN JAPANESE POTENTIAL CONSTRUCTIONS　Akiko KOBAYASHI　542
有対の自・他動詞の意味制約（上） ―受け身、使役、可能、自発との関わり―　中野琴代　559
「連体修飾節と主節の時間的関係について」再論 ―石井・石川（二〇一〇）への反論―　大島資生　564
キリシタン資料における助詞ヨリの「主格」用法について ―コンテムツスムンヂを中心に―　小島和　一〇八
「属」の分類原理 ―富士谷成章『あゆひ抄』におけるテニヲハの分類―　遠藤佳那子　一一八
連体修飾表現の接続形式トノとその周辺　登内恭平　572
述体に於ける動詞文と形容詞文　石神照雄　一二七
述体に於ける名詞文　石神照雄　一三四
優位性効果と指示関数　村田明　578
副詞句と否定文　井島正博　一四四
明治期国定『高等小学読本』の可能表現形式　小木曽智信　一五八
数量詞と否定文　井島正博　一七七
現代語確立期における「はずだ」の用法推移 ―予定を意味する客観的な「はず」の衰退を中心として―　松本隆　583
複合辞の「ことだ」についての一試論　高橋雄一　590

創価大学日本語日本文学会　日本語日本文学　二二（一二・三）　事態の既定性と「せっかく」構文　蓮沼昭子　602
創価大学日本語日本文学会　日本語日本文学　二三（一三・三）　「とする」と「にする」の違い　―意味・用法を中心にして―　大塚望　614
園田学園女子大学論文集　四六（一二・一）　テ形節における統語的考察　吉永尚　624
園田学園女子大学論文集　四七（一三・一）　「ナイデ」と「ナクテ」の相違について　吉永尚　630
大東文化大学語学教育研究所　語学教育研究論叢　三〇（一三・二）　限定的評価判断の表現　―「だけに」「だけあって」などをめぐって―　田中寛　634
拓殖大学大学院　言語教育研究科研究年報　一三（一三・三）　出発点を表す格助詞「を」と「から」について　孫逸珊　645
拓殖大学大学院　言語教育研究科研究年報　一三（一三・三）　格助詞「デ」の包括的意味用法に関する一考察　盤若洋子　651

（第二分冊増刊に続く）

＊＊＊……著作権者と連絡がとれなかったため紹介にとどめた論文

第二分冊増刊（文法）

文　法（承前）

筑紫女学園大学・短期大学部　人間文化研究所年報　二四（二〇一一・八）　緒方隆文　1
「NP1のNP2」のカテゴリー分析

千葉大学文学部日本文化学会　語文論叢　二八（二〇一一・七）　岡部嘉幸　9
モダリティに関する覚え書き

中京大学文学会　中京国文学　三一（二〇一一・三）　宮内佐夜香　20
接続詞「なので」の書き言葉における使用について　―『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を資料として―

筑波応用言語学研究　一九（二〇一一・一二）　孟熙　27
迂言的受身表現「～を受ける」について　―漢語サ変名詞の特徴を中心に―

筑波応用言語学研究　一九（二〇一一・一二）　湯本かほり　34
「ノコト目的語」におけるコトの分析　―必須のコトから介在可能なコトへの連続性―

筑波大学大学院　文芸言語研究　言語篇　六一（二〇一一・三）　今田水穂　41
名詞述語文の生成語彙論的解釈

筑波大学大学院　文芸言語研究　言語篇　六一（二〇一一・三）　渡邊淳也　51
叙想的時制と叙想的アスペクト

筑波大学大学院　文芸言語研究　言語篇　六二（二〇一一・三）　杉本武　73
原因の「～で」と「～ことで」について

天理大学　外国語教育　理論と実践　三九（二〇一一・三）　田中紀男　81
主要部内在関係節再考

天理大学学報　六五―一（二〇一一・一〇）　岩田良治　87
日本語の非限定的名詞修飾節と推論用法の「～から」節について

東海大学紀要　国際教育センター　三（二〇一一・三）　外崎淑子　92
日本語心理動詞の性質について　―受身・使役の考察から―

東京大学言語学論集　三二（二〇一一・九）　野田高広　99
アスペクト形式「ている」の成立について

東京大学言語学論集　三三（二〇一一・一）　Machida, Ken　111
Formal Description and Explanation of Temporal Properties of Sentences

東京大学国語国文学会　国語と国文学　八九―一一（二〇一一・一一）　井島正博　一
文末ノダ文の構造と機能

東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻紀要　Language, Information, Text　19（二〇一一・一一）　Takane Ito　117
On the Bi-clausality of the Productive Causative Construction in Japanese:Evidence from ERP Experiments

東京外国語大学日本研究教育年報　一七（二〇一一・三）　韓必南　123
日本語の「ある／いる」構文の類型　―命題の意味的特徴に注目して―

東京学芸大学紀要　総合教育科学系二　六三（二〇一一・二）　岡智之　133
ニ格の起点用法について　―指同性からの説明―

東京学芸大学国語国文学会　学芸国語国文学　四五（二〇一一・三）　真田治子　139
主格を示す助詞の頻度分布と主格省略の問題　―結合価理論を参考にした計量的分析―

東京学芸大学国語国文学会　学芸国語国文学　四五（二〇一一・三）　小林正行　146
副助詞ナドの機能

東京学芸大学国語国文学会　学芸国語国文学　四五（二〇一一・三）　阿部志野歩　※※
「名詞＋動詞連用形＋する」型動詞と「名詞＋動詞」型動詞の語構成と自他

同志社大学国文学会　同志社国文学　七八（二〇一一・三）　藤井俊博　八
古本説話集の「けり」のテクスト機能　―「にけり」「係り結び」の終結機能―

同志社大学日本語・日本文化研究　一〇（二二・三）
東北大学文学会　文化　七六・三・四（二三・三）
東北大学文学研究科研究年報　六一（二二・三）
常磐大学コミュニティ振興学部紀要　コミュニティ振興研究　一二（二一・三）
常磐大学コミュニティ振興学部紀要　コミュニティ振興研究　一四（二二・三）
富山大学国語教育　三七（二二・一一）
名古屋大学言語研究　Nagoya Linguistics（名古屋言語研究）6（二一・三）
名古屋大学言語研究　Nagoya Linguistics（名古屋言語研究）6（二一・三）
名古屋大学言語研究　Nagoya Linguistics（名古屋言語研究）6（二一・三）
名古屋大学言語文化研究会　ことばの科学　二五（二二・一二）
名古屋大学言語文化研究会　ことばの科学　二六（二三・一二）
名古屋大学国語国文学　一〇五（二二・一一）
名古屋大学　日本語・日本文化論集　一九（二二・三）
名古屋大学大学院　言葉と文化（Issues in Language and Culture）一四（二三・一）
奈良女子大学日本アジア言語文化学会　叙説　四〇（二三・三）
鳴門教育大学国語教育学会　語文と教育　二七（二三・八）
南山大学大学院　南山言語科学　七（二二・三）
南山大学大学院　南山言語科学　七（二二・三）
西日本国語国文学会会報　平成二四年度（二二・八）
西日本国語国文学会会報　平成二五年度（二三・八）
日中言語研究と日本語教育研究会　日中言語研究と日本語教育　五（二二・一〇）
日中言語研究と日本語教育研究会　日中言語研究と日本語教育　六（二三・一〇）
日中対照言語学会　日中言語対照研究論集　一五（二三・五）

受給動詞の用法の一考察　―シナリオにおける用例の分析―　米澤昌子　153
現代日本語「た」の意味　大木一夫　一六
事態を描かない文・素描　大木一夫　二六
On the Distribution of the Interpretations of the te-iru Construction in Japanese　Tadashi Baika　163
「かけ」名詞構文について　梅香公　177
準体句述部の文語連体形の機能　―『中華若木詩抄』の形容詞・形容動詞等における―　樋野幸男　182
指示対象の捉え方から見るソとアの使い分け　モスタファ・ヤスミーン　186
自発・受身の成立条件　―思考動詞ラレル文ル形のテンス的意味に注目して―　高橋芽衣子　191
奈良平安朝文芸における過去辞が介入する分詞用法　釘貫亨　四〇
機能動詞「与える」と「加える」のヲ格名詞について　朱薇娜　197
コーパスに基づく日本語の文法形式の使用傾向の記述　―「大きい・な」「小さい・な」の使い分けについて―　劉善鈺　205
上代における終助詞カの意味変化とカ文の構造変化　小出祥子　213
終助詞「な」が表す感情表出機能の実体　松岡みゆき　221
語用論の観点から見た認識のモダリティ形式「カモシレナイ」について　國澤里美　233
広告表現等における〈終止形準体法〉について　島田泰子　242
サエを含む文の意味表示　田中大輝　250
「ながら」「つつ」間に見られる統語的差異について　鴛海芙美　259
補助動詞「テシマウ」の文法化　近藤かをり　265
ロシア資料にみえる「テオル」「チョル」「トル」　久保薗愛　273
格助詞「を」と「に」の対象表示用法について　佐藤友哉　四六
日本語における「ヴォイス」を再考するために　―主語が動きの主体か否か―　早津恵美子　279
動詞と日本語の多様性　工藤真由美　287
現代日本語のテンスとムード　―反事実仮想を中心に―　工藤真由美　292

日本英語学会　English Linguistics 29-2（二〇一二・一一）

日本英語学会　English Linguistics 30-1（二〇一二・六）

日本言語学会　言語研究　一四一（二〇一二・三）

日本言語学会　言語研究　一四一（二〇一二・三）

日本言語文化研究会　日本言語文化研究　一七（二〇一二・二）

日本言語文化研究会　日本言語文化研究　一八（二〇一二・一二）

日本語学研究と資料の会　日本語学　研究と資料　三五（二〇一二・四）

日本語／日本語教育研究会　日本語／日本語教育研究　三（二〇一二・五）

日本語／日本語教育研究会　日本語／日本語教育研究　四（二〇一二・六）

日本語／日本語教育研究会　日本語／日本語教育研究　四（二〇一二・六）

日本女子大学国語国文学会　国文目白　五一（二〇一二・二）

日本比較文化学会　比較文化研究　一〇七（二〇一二・六）

ノートルダム清心女子大学紀要　外国語・外国文学編　三七―一（二〇一二・三）

ノートルダム清心女子大学紀要　日本語・日本文学編　三七―一（二〇一二・三）

東アジア日本語教育・日本文化研究学会　東アジア日本語教育・日本文化研究　一六（二〇一二・三）

東アジア日本語教育・日本文化研究学会　東アジア日本語教育・日本文化研究　一六（二〇一二・三）

東アジア日本語教育・日本文化研究学会　東アジア日本語教育・日本文化研究　一六（二〇一二・三）

姫路獨協大学大学院　日本語教育論集　二一（二〇一二・三）

広島大学日本語教育研究　二三（二〇一二・三）

広島大学大学院教育学研究科紀要　第二部文化教育開発関連領域　六一（二〇一二・二）

広島大学大学院教育学研究科紀要　第一部学習開発関連領域　六一（二〇一二・一二）

NUMERAL INDETERMINATE PHRASES AND THEIR EXISTENTIAL QUANTIFICATION BY *MO* IN JAPANESE　TOSHIKO ODA　301

THE MORPHOLOGY AND INTERPRETATIONS OF GRADABLE ADJECTIVES IN JAPANESE　CHIGUSA MORITA　317

NOMINALIZATION IN THE JAPANESEE PREDICATE DOUBLING CONSTRUCTION　YUKI ISHIHARA　330

イ落ち：形と意味のインターフェイスの観点から　今野弘章　342

The Presuppositional Nature of *izyoo(-ni)* and *gurai* Comparatives: A Note on Hayashishita (2007)　YUSUKE KUBOTA　356

「～はおろか」の統語的性格と表現性―「～はもちろん」との対比において―　藤田保幸　五二

引用述語省略説の残映、その後　藤田保幸　六一

国定国語教科書における文末思考動詞　渡辺由貴　363

時の〝特化〟を表す名詞述語文―〈～時だ〉、〈～昨今だ〉などを例に　田中寛　370

「使役（態）」に言及せずに「使役表現」を教えるには　―一つの「教授法」　庵功雄　380

機能動詞「受ける」のヲ格名詞に対する一考察―漢語動名詞を中心に　朱薇娜　389

書きことばに現れる「ません」と「ないです」　落合智子　398

プロトタイプ理論から見る日本語の形容動詞　毛瑩　※※※

Extending the Binding Domain of Anaphora in Japanese　Mari SAKAGUCHI　402

形態素順序に関する、現在進行中の変化―複合動詞の使役形・受身形―　山部順治　411

日本語の条件表現における多層的なネットワークモデルの構築　―認知言語学のアプローチから―　劉暁華　421

中世語以降の「ヲ複合接続（助）詞」の文法化の特徴について　劉洪岩　435

助詞「ぞ」と推量系助動詞との関わり　―万葉集・上代歌謡を中心に―　伊藤亜希子　443

「私は」と「私φ」による発話解釈への影響　浅津嘉之　451

第二類否定疑問文「ナイカ」「ノデハナイカ」に関する考察　西嶋千恵　455

否定命令としての「じゃないか」　―語用論的側面から―　白川博之　459

述語中心文法の可能性　―新しい教育文法への試み―　金志姫　464

妹尾知昭

広島女学院大学日本文学　二三（二二・七）　柚木靖史　七〇
『宇津保物語』における「奏す」「啓す」の特殊用法（一）―「奏す」と「申す」の意味的関係―
広島女学院大学日本文学会　国語国文学誌　四二（二二・一二）　王爽　469
「なくて」と「ないで」をめぐる一考察―述語のコントロール性とモダリティの観点から―
広島女学院大学日本文学会　国語国文学誌　四三（二三・一二）　柚木靖史　八四
『宇津保物語』における「奏す」「啓す」の特殊用法（一）―「奏す」「啓す」「申す」の意味的関係―
フェリス女学院大学文学部紀要　四七（二二・三）　奈良夕里枝　480
日本語の条件表現における後件のモダリティ―制約
福岡教育大学紀要　第一分冊　文科編　六一（二二・二）　勝又隆　九九
上代におけるモノソ文の用法
福岡教育大学国語科研究論集　五四（二三・二）　勝又隆　一〇五
上代における「連体形＋モノ」形式の分布について
藤女子大学国文学雑誌　八八（二三・三）　漆崎正人　一一二
キリシタン資料における下二段活用動詞〝アイツク〟について
文教大学国文　四一（二二・三）　鬼山信行　486
逆接とは何か
文教大学国文　四二（二三・三）　鬼山信行　494
条件節事態先行性について
文教大学文学部紀要　二五―一（二一・九）　宮部真由美　505
テクストからみた「～と」と「～たら」の複文―すでにあるできごとを描写する用法を中心に―
文教大学文学部紀要　二六―二（二三・三）　宮部真由美　521
タラ条件形を従属節とする従属複文の主節と従属節の意味類型と複文
文教大学大学院言語文化研究科付属言語文化研究所紀要　言語と文化　二四（二二・三）　近藤研至　536
接続助詞シについて
文献探究の会　文献探究　五一（二三・三）　久保薗愛　544
ロシア資料の動詞の活用
法政大学国文学会　日本文学誌要　八六（二二・七）　尾谷昌則　一一九
「書かないです」と「書きません」
北海道教育大学語学文学会　語学文学　五二（二三・一二）　馬場俊臣　550
接続詞の二重使用の承接順序について―『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を用いた再検討―
北海道教育大学語学文学会　語学文学　五二（二三・一二）　阿部二郎　562
「ことにする」について―人称・時制の観点から―
北海道文教大学論集　一四（二三・三）　小西正人　567
現代日本語の「つつある」の事象投射構造的分析
萬葉学会　萬葉　二二五（二三・九）　内田賢徳　一二五
萬葉集におけるラムの出発と展開―ラシとの交渉―
三重大学　日本語学文学　二三（二二・六）　岡田佳美　575
助詞「が」と「を」の研究―「水が飲みたい」と「水を飲みたい」から―
宮城学院女子大学日本文学会　日本文学ノート　四八（二三・七）　田島優　一三六
『日本霊異記』の敬語の補助動詞
武蔵野学院大学大学院研究紀要　六（二三・四）　坂詰力治　一四三
表現者の使用言語選択意識についての考察―共通説話における助動詞を手がかりとして―
明治大学日本文学　三八（二二・三）　陳慧玲　583
近代東京語における「てくんなさい系統」行為要求表現の考察
安田女子大学日本文学会　国語国文論集　四三（二三・一）　宮岸哲也　591
日本語与益構文における与格受益者の許容条件の再考
山口大学教育学部研究論叢　芸術・体育・教育・心理　六二―三（二三・一）　原田拓馬　596
文法の社会的機能と文法教育に関する考察　田中理絵

山口大学教育学部研究論叢　人文科学・社会科学　自然科学　六二―一・二（一三・一）

現代語の終助詞「とも」の働き　中野伸彦　一四九

山口大学人文学部国語国文学会　山口国文　三五（一二・三）

格助詞「に」と「へ」の使い分けについて―アンケート調査の分析を基に―　郭林伸一潔　600

立正大学国語国文　五〇（一二・三）

名詞句における「ような」と「ように」の交替―比況用法の場合―　光信仁美　608

立命館大学文学部人文学会　立命館文學　六三三（一三・一一）

場所格の「に」「で」と述語「ある」との選択関係　佐野まさき　613

龍谷大学国際センター研究年報　二一（一二・三）

鷗外初期文語体作品の疑問表現について―『水沫集』所収作品を資料として―　藤田保幸　620

麗澤大学紀要　九五（一二・一二）

共起関係を表す時間節のテンスと文の解釈　家田章子　628

麗澤大学大学院　言語と文明　一〇（一二・三）

「～みたいだ」文法化の過程　杉浦滋子　638

麗澤大学大学院　言語と文明　一一（一三・三）

日本語の理由表現・理由疑問表現　杉浦滋子　649

和光大学表現学部紀要　一二（一二・三）

所有者受動文に関する一考察　「足をつかまれる」と「足を痩せる」　天野みどり　657

早稲田大学国語教育研究　三二（一二・三）

ガ格形容詞を述語とした「は」も「が」も使えない文―「映画、面白かったね」という文をどう捉えるか―　苅宿紀子　662

早稲田大学国文学会　国文学研究　一七〇（一三・六）

因果関係の複文と意志的制御　森山卓郎　669

早稲田大学大学院　教育学研究科紀要別冊　一九―二（一二・三）

江戸後期から明治二〇年代までの「言う」の意味を表す尊敬表現―「おっしゃる」を中心に―　山田里奈　674

早稲田大学大学院　教育学研究科紀要別冊　二〇―二（一三・三）

江戸後期から明治二〇年代までの〈見る〉の尊敬表現―「ごろうじる」系を中心に―　山田里奈　681

早稲田大学大学院　教育学研究科紀要別冊　二二―一（一三・九）

明治二〇年代までにおける〈する・なる〉の尊敬表現形式―「お～なさる」、「～なさる」、「お～だ」系を中心に―　山田里奈　688

※※……著作権者と連絡がとれなかったため紹介にとどめた論文

第三分冊（語彙）

語　彙

青山学院大学日本文学会　青山語文　四二（二〇・三）　佐伯真一　一
茨城大学人文学部紀要　人文コミュニケーション学科論集　一五（二三・九）　櫻井豪人　1
宇都宮大学教育学部紀要　六三―一（二三・三）　佐々木英和　7
宇都宮大学国際学部研究論集　三三（二一・二）　中村真　17
宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター年報　五（二三・三）　方小贇　25
海山文化研究所　対照言語学研究　二三（二一・二）　酒井悠美　29
海山文化研究所　対照言語学研究　二三（二一・二）　楊瓊　38
海山文化研究所　対照言語学研究　二三（二一・二）　高山道代　42
海山文化研究所　対照言語学研究　二三（二一・二）　樊彭広頴　48
海山文化研究所　対照言語学研究　二三（二一・二）　酒井悠美　58
海山文化研究所　対照言語学研究　二三（二一・二）　塚原竜一　62
愛媛大学人文学会　人文学論叢　一五（二三・二）　清田朗裕　69
大阪大学大学院文学研究科　待兼山論叢　四六　文学篇（二二・一二）　タチアーナ・クドヤーロワ　78
大阪大学大学院文学研究科　待兼山論叢　四六　日本学篇（二二・一二）　池田敬子　七
大谷大学文芸学会　文芸論叢　七八（二一・三）　大坪併治　一五
岡山大学言語国語国文学会　岡大国文論稿　三九（二一・三）　大坪併治　一七
岡山大学言語国語国文学会　岡大国文論稿　四〇（二一・三）　高崎みどり　86
お茶の水女子大学人文科学研究　八（二一・三）　地引愛　93
学習院大学国語国文学会誌　五六（二三・三）　佐藤琢三　102
学習院女子大学紀要　一五（二三・三）　近藤明　一九
金沢大学人間社会学域学校教育学類紀要　四（二二・二）　長崎靖子　108
川村学園女子大学研究紀要　二三―一（二二・三）

「ひとつはちす」考
―『対訳名物図編』の訳語について　―『増訂華英通語』『英語箋』と一致する訳語を中心に―
現代日本語「自己実現」の意味内容の変質　―テキストマイニングの手法を用いた通時的考察―
学術用語としての感情概念の検討　―心理学における表情研究を例に―
日本語における「重言」およびその教育法
いま、いまや、いまごろ、いまさら　―テンポラリティとモダリティの表現―
上代文献に見られる「然」字の用法について　―『万葉集』を中心として―
平安期日本語における感情的な状態をあらわす形容詞を述語とする文の対象語についての一考察　―「いとほし」「かなし」「ゆかし」の分析をとおして―
意志動詞・無意志動詞再考　―［意図］と［制御性］を中心に―
よくぞ、よくも　―記述の文と情動表出の文―
古代日本語動詞の意味構成　―概念カテゴリーを通して―
中古語トカクの意味的特徴　―現代語との対照―
現代新聞における略語使用の変動傾向とその類型
『平家物語』と『太平記』のことば（二）　―形容詞「あさまし」の語義―
『播磨国風土記』の「南毘都麻」について
古訓三題「轗カタヒラ・依ヨスキ・逮ウ」について
〝美味〟を意味する語の使用と性差　―「おいしい」を中心に―
小学校配布物から情報を得るために必要な語彙の探索　―使用頻度の高い語彙に注目して―
外来語研究における意味分析　―「ムード」と「雰囲気」の類義分析による事例研究―
容易の意の「～ヨシ／ヨイ」の語史
「かまど詞大概」の語彙　―「諸人片言なをし」等との比較を通して―

関西学院大学人文学会　人文論究　六一―四（一二・二）
関西学院大学日本文学会　日本文藝研究　六五―一（一三・一〇）
岐阜聖徳学園大学国語国文学　三一（一二・三）
九州大学国語国文学会　語文研究　一一三（一二・六）
九州大学国語国文学会　語文研究　一一六（一三・一二）
京都大学文学部国語学国文学研究室　国語国文　八二―一（一三・一）
京都女子大学国文学会　女子大国文　一五三（一三・九）
京都橘大学研究紀要　三九（一三・二）
京都府立大学国中文学会　和漢語文研究　一一（一三・一一）
熊本大学文学部国語国文学会　国語国文学研究　四七（一一・一）
皇学館大学人文学会　皇学館論叢　四六―一（一三・一）
甲南女子大学研究紀要　文学・文化編　四九（一三・三）
甲南女子大学国文学会　甲南国文　五九（一二・三）
神戸松蔭女子学院大学　Theoretical and Applied Linguistics at Kobe Shoin (TALKS) 16（一三・三）
神戸松蔭女子学院大学学術研究会　Journal of the Faculty of Human Sciences, Kobe Shoin Women's University 1（一一・二）
国立国語研究所　国語研プロジェクトレビュー　三―三(冊子版三)（一三・六）
国立国語研究所　国語研プロジェクトレビュー　四―一（一三・六）
国立国語研究所　国語研プロジェクトレビュー　四―一（一三・六）
国立国語研究所論集　六（一三・一一）
国立国語研究所論集　六（一三・一一）
国立国語研究所論集　六（一三・一一）
埼玉大学紀要　教養学部　四八―二（一三・三）
静岡県立大学短期大学部言語文化学会　言語文化研究　一二（一三・三）

石干見の呼称に関する覚え書き　田和正孝　二四
俗語訳成立史(上)　田中康二　三八
天草版『エソポのハブラス』の助詞の語彙―天草版『平家物語』・『平家物語』〈高野本〉との比較を通して―　濱千代いづみ　117
『風葉和歌集』における人物呼称　宮崎裕子　四九
上代における「託」の訓に関する一考察　藤崎祐二　五六
『竹取物語』くらもちの皇子の話説について　―その偽語源　内田順子　六八
『老子道徳経』古点の和訓語彙攷略　西崎亨　＊
動作範囲の拡張　宮島達夫　132
「いづち」から「どち」へ　松本朋子　七六
『看聞日記』に於ける「生涯」を含む熟語の意味―「及生涯」「懸生涯」「失生涯」「生涯谷」等の意味について―　堀畑正臣　八五
共与(ムタ)攷　金泳和　九三
仮想現実の設定とソ系列指示詞　―古代日本語を中心に―　藤本真理子　138
「玄奘三蔵絵」詞書における指示語「かくて」―和文系語彙と訓読系語彙の併用の観点から―　西田隆政　142
語彙分解によるアスペクトの分析　郡司隆男　147
共通感覚におけるイメージ用語の文化的特性―日本女性の洋装におけるイメージ用語を中心に　徳山孝子　157
日本語の基本語彙に関する研究　島村直己　161
『明六雑誌コーパス』『太陽コーパス』から見る近代語彙　田中牧郎　166
テキストにおける語彙の分布と文章構造　山崎誠　171
大正期における外来語の増加に関する計量的分析　鄧牧　＊＊
大規模コーパスを用いた形容詞と名詞のコロケーションの記述的研究　―日本語教育のための辞書作成に向けて―　イレーナ・スルダノヴィッチ　174
在華宣教師の洋学資料に見える四字語―蘭学資料の四字漢語との対照を兼ねて―　朱京偉　188
「生」と〝料理の三角形〟　―意味派生の基盤をめぐって　小出慶一　202
新聞記事を資料とした言語意識調査―新語〝なにげに〟を例に―　新野直哉　209

『和漢三才図会』の語彙 ―「もろし」の意義― 田籠 博 217
対義関係の二字熟語について 中川 秀太 一〇三
他者が理解している新語の意味の推測 ―「ツンデレ」における自己中心性バイアスの検討― 瀧澤 純 渡辺 未由希 224
「一所懸命」の成立に関する一考察 ―漢語受容史研究の観点から― 鄭 艶飛 一一〇
西周における「哲学」という訳語の形成について 孫 彬 228
ヨリ三態 ―日本語雑記・後拾遺― 工藤 力男 一二〇
絆 里山 障がい者 ―日本語雑記・続後拾遺― 工藤 力男 一二四
一兵卒 ―辞苑閑話・一 工藤 力男 一三〇
狂詩の漢字語 ―『東海道中詩』の場合― 荒尾 禎秀 一三三
「平産」から「安産」へ 鈴木 丹士郎 一四一
高校野球選手におけるスポーツオノマトペに関する研究 ―使用実態の把握と指導場面における効果的な使用法の検討― 遠藤 俊郎 他四名 232
視点の違いによる次元形容詞の使い分け ―「大きい・小さい」と「高い・低い」― 劉 笑倩 242
日本の膾と韓国の膾の食文化史について 冼 秋翔 249
固有名詞のカテゴリー要件 緒方 隆文 261
抄物資料におけるオノマトペの役割 坪井 美樹 269
むすひということばとその拡がり 毛利 正守 一五六
副詞「かなり」の語史（付、形容動詞「かなり・だ」） 加藤 浩司 一六二
和語接頭語の意味用法の分類 田村 紘 276
類義語研究 ―「結果」と「成果」― 立山 智絵 285
平安物語の継子いじめの連想作用 ―「継母」「継父」「継子」「継女」の用例分析から― 森 あかね 一六九
『中央公論』一〇一年の高頻度語彙および増減傾向 入江 さやか 294
ひつじ草（睡蓮） ―「日花」について― 吉野 政治 一七六
『百人一首』の「暁」考 吉海 直人 一八二
接辞性字音語基の造語力 ―「者」「家」「人」を対象として― 曽 睿 300

徳島大学国語国文学　二六　（二三・三）

名古屋大学言語文化研究会　ことばの科学　二五（二二・一二）

名古屋大学　日本語・日本文化論集　一九（二二・三）

名古屋大学　日本語・日本文化論集　一九（二二・三）

名古屋大学大学院国際言語文化研究科言語文化論集　三四―二（二三・二）

名古屋大学大学院国際言語文化研究科言語文化論集　三四―二（二三・二）

名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本言語文化専攻　言葉と文化　一四（二三・二）

奈良女子大学日本アジア言語文化学会叙説　四〇（二三・三）

南山大学日本文化学科論集　一二（二二・三）

日本学生支援機構　日本語教育センター紀要　九（二三・七）

日本心理学会　心理学研究　八三―二（二二・六）

日本大学国文学会　語文　一四三（二二・六）

日本通訳翻訳学会　通訳翻訳研究　一三（二三・二）

日本比較文化学会　比較文化研究　一〇二（二二・六）

日本文学協会　日本文学　六二―一二（二三・二）

東アジア日本語教育・日本文化研究学会　東アジア日本語教育・日本文化研究　一六（二三・三）

東アジア日本語教育・日本文化研究学会　東アジア日本語教育・日本文化研究　一六（二三・三）

東アジア日本語教育・日本文化研究学会　東アジア日本語教育・日本文化研究　一六（二三・三）

東アジア日本語教育・日本文化研究学会　東アジア日本語教育・日本文化研究　一六（二三・三）

兵庫県立大学神戸学園都市キャンパス学術研究会・兵庫県立大学政策科学研究所　人文論集　四七（二二・三）

広島女学院大学日本文学　二二（二二・七）

広島女学院大学日本文学　二三（二三・七）

明治期の郷土誌に於ける『帰化語』について―香川県三野郡を例として、帰化語の概念の変化、歴史的背景、文化移入との関わりなど―　島田　治　一九〇

中国語話者による複合動詞「V1－飽きる」のV1＋V2結合意識　杉村　泰　306

「せつない」と「やるせない」の意味分析　加藤恵梨　314

多義語における統合的関係と多義的別義の関係　籾山洋介　323

コーパスを利用した複合動詞「V1－通る」の意味分析　杉村　泰　334

「言い訳」考（序説）　籾山洋介　341

漢語サ変動詞「除Nする」の意味と構文　張　善実　349

正倉院文書の「早速」―和製漢語のうまれる場面―　桑原祐子　二〇五

千早城と歌語「ちはやぶる」試論　森田貴之　二一八

動作動詞の日中対照研究「もむ」・「こねる」と「揉」　水落いづみ　358

自他の性格評定に使用可能な擬態語性格尺度の構成　小松孝至他三名　366

童謡の歌詞におけるオノマトペ―時代差の観点から―　森山未季子　371

『猶太人の浮世』から『憂患余生』へ―語彙の選択から見る近代日中間の「重訳」―　呉　燕　377

漢語の読み理解と意味理解にコンテクストが果たす役割　平川彩子　385

『源氏物語』の妻妾の呼称の独自性―光源氏の妻妾の呼称―　鵜飼祐江　二二九

否定表現「不」の文法機能　林楽青　390

日本語絵本における語の使用の特徴と伝達内容　村上康子　400

ムタ攷―韓国語（moto）を中心に―　金　泳和　408

日本語におけるカタカナ言葉の普及とその原因―グローバリゼーションの観点から―　ケレウリゼ・ニノ　417

商品名および店名・施設名に利用されているオノマトペ　田守育啓　426

「リアル」を構成要素とする複合名詞の語彙的特徴　渡邊ゆかり　438

「個人的な＋名詞」「私的な＋名詞」の使い分け　渡邊ゆかり　454

広島女学院大学大学院言語文化論叢 一六（一三・三）
福島大学国語教育文化学会　言文　六〇（一三・三）
藤女子大学国文学雑誌　八六（一二・三）
藤女子大学国文学雑誌　八七（一二・一）
佛教大学　文学部論集　九七（一三・三）
北海道教育大学国語国文学会・札幌　札幌国語研究　一七（一二・八）
北海道教育大学函館人文学会　人文論究　八一（一三・三）
万葉学会　万葉　二一六（一三・一）
宮城学院女子大学日本文学会　日本文学ノート　四七（一二・七）
武庫川女子大学言語文化研究所年報　二三（一二・一）
明海大学外国語学部論集　二五（一三・三）
明治大学日本文学　三八（一二・三）
明治大学日本文学　三八（一二・三）
明治大学大学院　文学研究論集　三八（一三・二）
目白大学人文学研究　九（一三・三）
安田女子大学日本文学会　国語国文論集　四三（一三・一）
山形県立米沢女子短期大学紀要　四八（一二・二）
山口大学人文学部国語国文学会　山口国文　三六（一三・三）
立教大学日本文学　一〇九（一三・一）
立正大学国語国文　五一（一三・三）
立命館大学日本文学会　論究日本文学　九七（一二・一二）
早稲田大学国文学会　国文学研究　一六七（一二・六）
早稲田大学大学院　教育学研究科紀要　別冊　二〇―一（二一・九）

「リアルな―名詞」と「リアル―名詞」の互換性　渡邊　ゆかり　465
副詞「つらつら」の意味変化　―インターネット資料を中心に―　佐藤　宣男　480
『羅葡日対訳辞書』におけるCaritasの項目をめぐって　―Charidade, amor,「たいせつ」「こんせつ」のありよう―　漆崎　正人　二三五
『羅葡日対訳辞書』における「こんせつ（懇切）」の現れ方をめぐって　漆崎　正人　二四一
古代日本語の船舶の名称における異文化の要素について　―さばにを中心に―　黄　當時　485
「兎」に関することわざ　―兎をどう捉えてきたか―　馬場　俊臣　495
「電子メール」とその競合的同意語の選択に関わるメカニズムの分析（二）　～局所的頻度要因の影響～　福田　薫　499
翻訳語の射程　―古事記「心前」・萬葉集「無暇」―　内田　賢徳　二四八
漢語系感謝表現の源流　田島　優　二五三
愛犬家と愛猫家の表現法　―投稿文における語彙と表現―　佐竹　秀雄　505
日本語の国際進出　―グーグルインサイトにみる外行語のトレンド―　井上　史雄　513
動物を数える助数詞「隻」について　王　鼎　521
明治時代語における「ぼく」の諸相　金祁　連福花鼎　530
助数詞「條（条）」について　王　鼎　537
「違った」考　山西　正子　547
教材「オツベルと象」の語彙研究　河内　昭浩　552
神勅の伝来　―『古事記』「賜」の用字意識を通してみた「言依賜」―　北野　達　二六五
日本語を学生と学ぶ（余滴）　―「神仏を拝む詞」「喧嘩の際の決まり文句」など―　添田　建治郎　二七六
「いなかたち」考　―「虫めづる姫君」の難語の解釈―　櫻井　靖久　二八四
『とはずがたり』の副詞語彙について　―基礎調査と「いと」と諸品詞の結びつき―　岡田　袈裟男　557
類義語としてのカタカナ語・和語の意味相違の考察　―「テーブル」「デスク」「机」の意味相違及び「テーブル」の基本語化―　陳　暁静　561
副詞「たいそう」の変遷　―近代語を中心に―　市村　太郎　568
成句「梅檀は二葉より―」述語部分の変遷　―カウバシからカンバシへ―　池上　尚　574

＊……論説資料のページ数の制約により、掲載できなかった長大な論文

＊＊……著作権者と連絡がとれなかったため紹介にとどめた論文

第四分冊（文章・文体・音声・音韻・方言）

一　文章・文体

大谷大学文芸学会　文芸論叢　七九（二二・一〇）
『続日本紀』宣命の表現　―漢語から日本語への翻案をめぐって―　根来麻子　一

岡山大学大学院教育學研究科研究集録一五三（二三・七）
レトリック作文の可能性　その一　―技法の体系・配列・反復―　伊土耕平　1

共立女子大学文芸学部紀要　五九（二三・一）
近代における女性書簡文の変遷　―文体と結語を焦点として―　茗荷円　八

熊本大学文学部国語国文学会　国語国文学研究　四八（二三・二）
歌詞の中の「生きざま」と「生き方」　―共時的な、あるいはデジタル的なものの見方の浸透―　塚本泰造　一九

国立国語研究所論集　三（二二・五）
接続助詞とジャンル別文体的特徴の関連について　―『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を資料として―　宮内佐夜香　5

静岡県立大学短期大学部言語文化学会言語文化研究　一一（二二・三）
『反古袋』における小杉天外の文末表現　田貝和子　二七

上智大学国文学科紀要　三〇（二三・三）
山田美妙「武蔵野」における文末時制　―節(Clause)を用いた文体分析の試み(五)―　服部隆　三三

白百合女子大学研究紀要　四八（二二・二）
覚一本平家物語の文頭語に見る文章の展開　―延慶本との比較から―　中里理子　12

全国大学国語国文学会　文学・語学二〇六（二三・七）
美妙の〈翻訳〉　―「骨は独逸肉は美妙／花の茨、茨の花」の試み―　大橋崇行　五三

東京大学国文学論集　八（二三・三）
掛詞の表現構造　萩野了子　五九

東京女子大學日本文學　一〇九（二三・三）
字幕と吹き替えの比較　梁瀬みき　21

同志社大学大学院日本語学研究会　同志社日本語研究　一六（二二・九）
小説における「コレ」と「ソレ」の文脈展開機能　―持ち込み内容を中心に―　張子如　30

名古屋大学国語国文学　一〇五（二二・二）
日本語社説の文章構造における統括性　―提題表現と叙述表現に注目して―　Didik Nurhadi　37

日本文体論学会　文体論研究　五九（二三・三）
翻訳が近代日本文学の文体の成立に果たした役割　照木健　47

日本文体論学会　文体論研究　五九（二三・三）
日・米・独の新聞記事における文体比較　楠根重和　58

広島大学国語国文学会　国文学攷二二五（二二・九）
醍醐寺蔵『探要法花験記』日本・中国両部の比較　―和化漢文用字法の共通基盤解明に向けて―　磯貝淳一　六七

広島大学大学院　論叢　国語教育学　復刊三（二二・七）
要約文の妥当性に関する指導の考察　早野賢謙　77

北海道教育大学紀要　人文科学・社会科学編　六三―二（二三・二）
接続表現の二重使用と文章ジャンルについて　馬場俊臣　84

明治大学大学院　文学研究論集　三七（二二・九）
明治期翻訳文学作品における欧文直訳表現　―コナン・ドイル著「ボスコム谷の謎」を資料として―　八木下孝雄　90

山口大学教育学部研究論叢　人文科学・社会科学　自然科学　六二―一・二（二三・一）
英文訓読が拓いたもの　藤本幸伸　95

琉球大学留学生センター　留学生教育一〇（二三・三）
助詞の相対頻度と漱石一〇作品の分類　金城克哉　100

流通経済大学論集　四八―一　（一三・七）

二　音声・音韻

アクセント史資料研究会　論集　九（一三・一二）
アクセント史資料研究会　論集　九（一三・一二）
大阪府立大学　言語文化学研究　日本語日本文学編　八（一三・三）
岡山大学言語国語国文学会　岡大国文論稿　四一（一三・三）
関西外国語大学留学生別科日本語教育論集　二三（一三・一二）
岐阜大学教育学部研究報告　人文科学六一―一（一三・二）
国立音楽大学　研究紀要　四七（一三・三）
小出記念日本語教育研究会論文集　二二（一三・三）
小出記念日本語教育研究会論文集　二二（一三・三）
國學院大學　國學院雑誌　一一四―二（一三・二）
國學院大學　國學院雑誌　一一四―六（一三・二）
国際日本語普及協会　AJALT　36（一三・六）
国立国語研究所論集　五（一三・五）
静岡大学人文社会科学部社会学科・言語文化学科研究報告　人文論集　六三―一（一二・七）
拓殖大学大学院　言語教育研究科研究年報　一三（一三・三）
朝鮮学会　朝鮮学報　二二七（一三・四）
名古屋大学留学生センター　日本語・日本文化論集　一九（一二・三）
日本音声学会　音声研究　一七―二（一三・八）
日本音声学会　音声研究　一七―二（一三・八）
弘前大学教育学部紀要　一〇八（一二・一〇）
弘前大学　国語国文学　三四（一三・三）

日本語の指導における教育的文体論　―随筆的評論教材を活用して―　立川和美　104
『日本考略』に見られる寄語のアクセント　―一、二拍語を中心に―　馬之濤　110
古代アクセントの終焉　―京都方言アクセント体系大変化の要因について―　鈴木豊　119
平曲譜本の音便表記　―青洲文庫本平家正節と尾崎家本平家正節（二）―　奥村和子　126
伊沢修二『日清字音鑑』におけるng韻尾の表記方法について　張照旭　132
文字表記と音声知覚の関連性　―表記と聴取データの比較から―　本橋美樹　137
いきものがかりの言語学一　～音声的特徴　山田敏弘　144
日本語における連濁の原理　―音楽の拍節理論による日本語アーティキュレーションの音韻論的考察―　古山和男　149
韓国人と中国人日本語学習者による音象徴語の意味理解　飯田香織　玉岡賀津雄　155
特殊モーラ知覚に対する重音節位置とアクセントによる影響　―英語母語話者を対象に―　石澤徹　161
京都女子大学蔵谷山文庫本『古今涇渭鈔』の声点一隅　西崎亨　七三
節用文字の同音字注　二戸麻砂彦　167
声とは、言葉とは、何か　―音声研究を通して考えること　峯松信明　174
談話論からみた句末音調形式の抽出　沖裕子　177
特殊拍連続を許容する現代日本語の傾向と近過去からの言語変化について　城岡啓二　186
撥音の後のハ行子音の半濁音化と濁音化について　―『常用漢字表』・『新選国語辞典』と『邦訳日葡辞書索引』における「二字漢語の比較から―　吉川幸修　200
言語普遍性に基づく外国語教育・習得研究　―朝鮮語と日本語の母音融合現象研究を中心に―　許田昌平龍　206
呼気継続時間と日本語リズムユニット　―日本語母語話者と韓国語ソウル方言を母語とする日本語学習者との比較―　鹿島慎吾央　217
機能性構音障害の音韻分析　―臨床的視点からの考察―　上田功　229
日本語における吃的非流暢性の特徴　―幼児の発話サンプルによる検討―　坂田善政　他三名　234
室町時代における漢字音の清濁　―『論語』古写本を題材として―　石山裕慈　239
「字音仮名遣い」の現状と提言　石山裕慈　八一

広島大学教育学部国語教育会　国語教育研究　五四（一三・三）
広島大学大学院教育学研究科紀要　第二部（文化教育開発関連領域）六一（一二・一二）
広島大学大学院教育学研究科紀要　第二部（文化教育開発関連領域）六一（一二・一二）
広島大学大学院教育学研究科紀要　第二部（文化教育開発関連領域）六二（一三・一二）
フェリス女学院大学文学部紀要　四八（一三・三）
文教大学文学部紀要　二五-二（一二・三）
文教大学文学部紀要　二六-一（一二・九）
文教大学大学院言語文化研究科付属言語文化研究所紀要　言語と文化　二五（一三・三）
琉球大学留学生センター　留学生教育一〇（一三・三）

三　方言

アクセント史資料研究会　論集　九（一三・一二）
阿波学会紀要　五九（一三・七）
茨城大学人文学部紀要　人文コミュニケーション学科論集　一五（一三・九）
愛媛大学人文学会　人文学論叢　一五（一三・一二）
愛媛大学人文学会　人文学論叢　一五（一三・一二）
大阪大学大学院　阪大社会言語学研究ノート　一〇（一二・三）
大阪大学大学院　阪大社会言語学研究ノート　一〇（一二・三）
大阪大学大学院　阪大社会言語学研究ノート　一〇（一二・三）
大阪大学大学院　阪大社会言語学研究ノート　一〇（一二・三）
大阪大学大学院　阪大社会言語学研究ノート　一〇（一二・三）
大阪大学大学院　阪大社会言語学研究ノート　一〇（一二・三）
大阪大学大学院　阪大社会言語学研究ノート　一〇（一二・三）
清原宣賢自筆『日本書紀抄』（後抄本）本文傍訓の声点が反映するアクセントについて　坂水貴司　九〇
韓国人日本語学習者のアクセント生成力の解明に向けて　―知覚・知識・自己モニターを中心に―　高橋恵利子　244
親鸞加点本に呉音声調の年代差は無い　佐々木勇　九六
第二言語としての日本語文の繰り返し音読における文の音韻・意味処理過程　―単語の音韻符号化の高速性と音声・意味重視教示の視点から―　佐藤智照　249
パラ言語的要素を含む場面別談話資料と音響音声学的・計量言語学的アプローチ　―首都圏在住女子大学生を対象として―　齋藤孝滋・他一四名　*
現代日本漢語における唇内入声音の促音化について　舘野由香理　254
現代日本漢語におけるハ行子音の半濁音化について　舘野由香理　265
ある日本語音声教材の現状を憂う　城生佰太郎　280
中国雲南方言母語話者による日本語音声の特徴　永野マドセン泰子・山元淑元乃子・楊　291
首都圏周辺部における新しい音調の受容パターン　―「とびはね音調」と複合語アクセント―　田中ゆかり・林直樹　300
旧三加茂町の方言　仙波光明・峪村真実・田口有香子　307
東日本大震災によるつくば市在住避難者の言語生活の変化と方言意識　杉本妙子　314
方言文化小考　―伊予弁とその風土―　清水史　326
言語意識に関する研究　―愛媛県の高校生を中心に―　田中千晶　331
若年層の命令形の使用範囲　―栗東市方言・福岡市方言・湖西市方言の対照から―　森勇太・平塚雄亮・中村光　336
兵庫県神戸市方言における命令表現　酒井雅史　345
福岡市方言の文末詞モン　平塚雄亮　351
大阪方言における「イ」の機能　―文末詞「ワイ」「カイ」の意味にもとづいて―　野間純平　354
大阪方言のとりたて形式カテについて　高木千恵　360
山形市方言の文末詞ヤ　―ヨと対比して―　渋谷勝己　366

大阪大学大学院　阪大社会言語学研究ノート　一一（一三・三）　カーター　372
高知県四万十市西土佐におけるスタイル切換え ―フォリナー・トークの観点から―　白坂千里　バーバラ
大阪大学大学院　阪大社会言語学研究ノート　一一（一三・三）　韓娥凜
和歌山市方言における疑問詞疑問文の文末詞「ナ」　山口華奈　379
大阪大学大学院文学研究科　待兼山論叢　四六　日本学篇（一二・一二）　酒井雅史　384
滋賀県長浜市における待遇表現の記述 ―日本語諸方言の待遇表現記述にむけて―　副島健作　392
沖縄外国文学会　Southern Review　27（一二・一二）　他地域出身者の「気がつきにくい方言」使用にかんする一考察 ―沖縄地域の「～わけ」の使用意識調査から―
宮古口の音韻構造と正書法について　下地良男　398
沖縄外国文学会　Southern Review　27（一二・一二）　レザノフ「会話」からみた一八世紀末石巻方言のマスとマスル　江口泰生　406
京都大学文学部国語学国文学研究室　国語国文　八一―一二（一二・一二）　「サ詠嘆法」の研究史とその問題点 ―文法的特質に着目して―　濱中誠　412
京都西山短期大学　西山学苑研究紀要　七（一二・三）　熊野市域の言語研究 ―「ライ」について―　松田麻希　100
皇学館大学人文学会　皇学館論叢　四六―二（一三・四）　富山県五箇山地方楮地区老年層方言の動詞派生接尾辞*-jar-*　黒木邦彦　422
甲南女子大学研究紀要　文学・文化編　四八（一二・三）　言語変化は経年調査データから予測可能か？　横山詔一　426
国立国語研究所　国語研プロジェクトレビュー　二（一二・六）　『日本言語地図』のデータベース化が開く新たな研究　熊谷康雄　432
国立国語研究所　国語研プロジェクトレビュー　四―一（一三・六）　地域語の観点からみた首都圏の言語の実態と動向の一側面　三井はるみ　437
国立国語研究所　国語研プロジェクトレビュー　四―二（一三・一〇）　Parental Influence on Dialect Acquisition: The Case of the Tone System of Kagoshima Japanese　TAKEMURA Akiko　441
国立国語研究所論集　三（一二・五）　宮沢賢治と浜田広介の語法に見る方言からの影響　小島聡子　448
国立国語研究所論集　五（一三・五）　喜界島方言のアクセント資料（一）　上野善道　456
国立国語研究所論集　五（一三・五）　宮古島における三型アクセント体系の発見 ―与那覇方言の場合―　松森晶子　473
国立国語研究所論集　六（一三・一一）　首都圏若年層の言語的地域差を把握するための方法と実践　鑓水兼貴　486
国立国語研究所論集　六（一三・一一）　言語研究と数量化理論 ―国立国語研究所の鶴岡言語調査―　阿部貴人　500
社会調査協会　社会と調査　九（一二・九）　南琉球竹富島の民話と唄　篠原茂子　藤本雅子　504
上智大学　Sophia Linguistica　60（一三・三）　琉球古典音楽の詩歌の日・英・西語訳Ⅲ-1　田仲勉　511
大東文化大学紀要　人文科学　五一（一三・三）　東北方言における有声化と無声化について　橋本文子　523
津田塾大学言語文化研究所報　二七（一二・七）　津軽方言の推量形式「ビョン」の意味変化に関する解釈　大槻知世　530
東京大学言語学論集　三二（一二・九）　西日本諸方言におけるアスペクトと形式の意味 ―調査法と理論的枠組みの再検討―　津田智史　535
東北大学文学会　文化　七五―三・四（一二・三）

東北大学文学研究科研究年報　六一（二二・三）
徳島大学　言語文化研究　一九（二一・二一）
徳島大学　言語文化研究　二二（二三・二一）
徳島大学国語国文学　二五（二二・三）
徳島大学国語国文学　二五（二二・三）
徳島大学国語国文学　二五（二二・三）
日本語学研究と資料の会　日本語学研究と資料　三五（二二・四）
日本心理学会　心理学研究　八四―一（二三・四）
弘前大学教育学部紀要　一〇九（二三・三）
弘前学院大学国語国文学会　弘学大語文　三九（二三・三）
広島大学日本語教育研究　二三（二三・三）
姫路獨協大学大学院　日本語教育論集　二二（二三・三）
フェリス女学院大学国文学会　玉藻　四七（二三・二）
フェリス女学院大学国文学会　玉藻　四七（二三・二）
福岡大学人文論叢　四四―三（二二・一二）
福岡教育大学紀要　第一分冊　文科編　六二（二三・二）
文献探究の会　文献探究　五一（二三・三）
北方言語ネットワーク　北方言語研究　三（二三・三）
横浜国大国語教育研究　三八（二三・六）
立命館大学日本文学会　論究日本文学　九六（二二・五）
琉球大学　言語文化論叢　九（二二・三）
琉球大学国際沖縄研究所　International Journal of Okinawan Studies (IJOS) 4-1（二三・九）

方言形成論の到達点と課題　―方言周圏論を核にして―　小林　隆　545
日本における方言研究の動向と展望　瀧岸口　李江　相信惠介　564
淡路島の方言語彙に関する研究　―じゃがいも・さつまいも・さといも―　岸江　峪口　有香信　578
京ことばにおける待遇表現に関する研究　―存在表現の世代差を中心に―　国　泉　588
徳島県旧東祖谷山村のアクセント　村田　真実　594
徳島県の言語調査報告　―アスペクトとあいさつ表現―　中津西　田　智太　602
「動詞否定形＋終助詞ネ」形式による行為要求表現　―福岡県筑前・筑後域における使用状況およびその背景―　笠万　裕美　619
共通語と大阪方言に対する顕在的・潜在的態度の検討　渡辺　唐沢　匠かおり　627
自閉症スペクトラム障害児・者の方言不使用についての理論的検討　松本　菊崎　敏秀　地原治　631
津軽弁わらべ歌　～明治期黒石市の方言により～　笹森　建一　英文　一〇九
奄美大島龍郷町浦方言の敬語形式の運用法　―人間関係の差異に着目して―　重野　裕美　635
富山方言談話における「アンタ」の機能　―自然談話における使用実態より―　苗田　敏美　639
日本語方言における「南北方言分布」（語彙音韻文法）の特徴　安部　清哉　643
首都圏在住女子大学生における場面別母音体系の音響音声学的考察（二）　齋藤　孝滋　他二三名　＊
福岡県における不快感を表す形容語　―大学生の実態―　山県　浩　＊
依頼の場面の談話分析　―大分県方言談話資料による―　杉村　孝夫　650
福岡方言のとりたて詞「ヤラ」「ゲナ」の成立をめぐって　松尾　弘徳　661
八重山語波照間方言の分詞　―単独形式と接語が付加した形式の機能―　麻生　玲子　667
「超神ネイガー」の方言　～変容する方言・再発見される方言～　小野寺　泰子　674
近世中頃の中国地方山間部における格助詞ノとガの用法　―「石見方言茶話」「田植歌」の考察から―　彦坂　佳宣　一二三
ウチナーヤマトゥグチ助詞「カラ」の研究　座安　浩史　680
The Central High Vowels in Ryukyuan Languages: A Comparative Palatographic Study of Yuwan Amami and Tarama Miyako　Hayato Aoi　Yuto Niinaga　686

琉球大学国際沖縄研究所 International Journal of Okinawan Studies (IJOS) 4-1 （二三・九）	Geographical Distribution of Mimetics in Amami-Okinoerabu Island	Akiko Tokunaga	691
琉球大学国際沖縄研究所 International Journal of Okinawan Studies (IJOS) 4-1 （二三・九）	The Representative, Negative, Past, and Continuative Forms of Miyako Verbs	Shigehisa Karimata	699
琉球大学国際沖縄研究所 International Journal of Okinawan Studies (IJOS) 4-1 （二三・九）	Amami Nominalizations	Masayoshi Shibatani Hiromi Shigeno	712
琉球大学法文学部紀要 日本東洋文化論集 一八（二〇・三）	沖縄県名護市幸喜方言の擬声擬態語	かりまた しげひさ	729

＊・・・・論説資料のページ数の制約により、掲載できなかった長大な論文

第五分冊（コミュニケーション・言語学・対照研究）

一　コミュニケーション

いわき明星大学人文学部研究紀要　二五（二〇・三）　大橋純一　1
非常時における言葉の人への効力　―東日本大震災をめぐって―

桜美林大学大学院言語教育研究科　言語教育研究　三（二三・三）　鄭圭弼　8
職場での日本語のインターアクション　―韓国人ビジネス関係者が感じるストレスとその軽減行動―

大分大学国際教育研究センター年報（二三・三）　カイザー・シャーラ　14
「師弟関係」と「長幼関係」における敬語の民主化

大阪大学大学院文学研究科　待兼山論叢　四七　日本学篇（二三・一二）　孫栄奭　25
マルチメディア・コーパスと言語行動研究　―先行研究との比較を中心に―

金沢大学経済学類　論文集　二〇（二二年度社会言語学演習研究論集　八）（二三・三）　西嶋義憲　34
交通標識の日独比較のために

関西外国語大学留学生別科日本語教育論集　二二（二二・一二）　西郷英樹　38
終助詞「ね」「よ」「よね」の発話連鎖効力に関する一考察　―談話完成タスク結果を基に―

関西学院大学言語教育研究センター　言語と文化　一五（二二・三）　Yasuko OBANA　49
Politeness as Role-Identity　―Application of Symbolic Interactionism―

京都外国語大学　無差　一九（二二・三）　大谷つかさ　田野岡幸　岸磨貴子　57
テレビ会議場面における日本語母語話者の言語行動　―インターネットを使った日韓交流学習を事例として―

京都産業大学論集　人文科学系列　四五（二二・三）　大栗真佐美　68
中国帰国者のアイデンティティ

久留米大学外国語教育研究所紀要　一九（二二・三）　島村賢一　77
敬卑待遇コミュニケーション vs 人称の自由論理

神戸松蔭女子学院大学　Theoretical and Applied Linguistics at Kobe Shoin (TALKS) 15（二二・三）　池谷知子　84
終助詞「つと」「つけ」の機能　―「つと」「つけ」で表現される私的領域内情報と目に見えない聞き手―

国立国語研究所　国語研プロジェクトレビュー　四―二（二三・一〇）　井上文子　92
方言ロールプレイ会話におけるコミュニケーション機能について

埼玉大学紀要　教養学部　四八―一（二二・九）　小出慶一　97
フィラーとしての「ちょっと」について

埼玉大学　国際交流センター紀要　六（二二・三）　金井勇人　104
Ortegaによる二人称(代)名詞の考察について

社会言語科学会　社会言語科学　一四―二（二二・三）　榎本剛士　108
多層的相互行為としての「ボーナス・クエスチョン」　―教室におけるメタ語用的言語使用という視点から―

社会言語科学会　社会言語科学　一五―二（二三・三）　福田牧子　115
多言語社会における日本語使用　―スペイン・カタルーニャ自治州在住の日本人のケース―

昭和女子大学近代文化研究所　学苑　八六四（二二・一〇）　嶺田明美　125
広告の表現について(二)　―テレビコマーシャルにおける業種と表現形式を中心に―

人文科教育学会　人文科教育研究　四〇（二三・八）　長澤輝世　長田友紀　130
話し合いにおける視覚情報化の学年ごとの特徴　―テキストマイニングによる小学生・中学生・大学生の分析―

成城大学文芸学部　成城文芸　二三四（二三・九）　工藤力男　一
嘆きか願いか疑いか　―辞苑閑話・二―

清泉女子大学紀要　六〇　（二〇・一二）
待遇コミュニケーション学会　待遇コミュニケーション研究　一〇（二三・二）
待遇コミュニケーション学会　待遇コミュニケーション研究　一〇（二三・二）
待遇コミュニケーション学会　待遇コミュニケーション研究　一〇（二三・二）
待遇コミュニケーション学会　待遇コミュニケーション研究　一〇（二三・二）
待遇コミュニケーション学会　待遇コミュニケーション研究　一〇（二三・二）
大東文化大学紀要　人文科学　五一（二三・三）
筑波応用言語学研究　一九　（二二・一二）
東海大学紀要　国際教育センター　二（二一・三）
東北大学文学会　文化　七六―三・四（二三・三）
東北大学大学院文学研究科言語科学専攻言語科学論集　一七（二三・一二）
徳島大学　言語文化研究　一九（二一・二）
徳島大学国語国文学　二五　（二二・三）
徳島大学国語国文学　二五　（二二・三）
常葉学園短期大学紀要　四三（二一・二）
名古屋大学文学部研究論集　文学　五八（二一・三）
日本教育心理学会　教育心理学研究　六〇―二（二一・六）
日本教育心理学会　教育心理学研究　六一―一（二三・三）
日本言語文化研究会　日本言語文化研究　一八（二三・一二）
日本コミュニケーション学会　ヒューマン・コミュニケーション研究　四一（二三・二）
日本語／日本語教育研究会　日本語／日本語教育研究　四（二三・六）
日本社会学会　社会学評論　六二―四（二一・三）

Roles in Interaction and Backchanneling Behavior: some differences between two casual interviews　TANAKA Noriko　136

「敬意コミュニケーション」の提唱　―待遇コミュニケーション学の可能性として―　蒲谷　宏　150
敬語コミュニケーションの基本的な考え方　坂本　惠　158
Eメールにおける文字種の選択　―非標準的な表記の背後に働く語用論的要素―　増地　ひとみ　167
「行動展開表現」におけるメタ言語表現の役割　李　婷　175
創設五周年記念大会（二〇一二年度秋季大会）シンポジウム記録　待遇コミュニケーション学の可能性　伊藤　由希子・蒲谷　宏・他二名　184
語用論的逸脱は聴覚Ｎ４００を惹起させるか？　冨桐　福盛　純一・越　貴　弘　194
物語の開始部における会話参加者の相互行為　李　孝　滉　200
言語管理理論における管理プロセス再考　―規範の動態性、管理プロセスの循環性と非共有性、及びミクロとマクロの往還―　加藤　好崇　206
接触場面における「直接話題転換方略」に関する一考察　―初対面場面の会話を維持するために―　エミ・インダー・プリヤンティ　215
感動詞への「と」の付加をめぐる語用論的意味に関する覚書　梅木　俊輔　221
依頼に対する断り表現について　清水　勇吉・石田　基信・江　広介　227
テキストマイニングによる文書分析　―内閣総理大臣の所信表明演説を元に―　清水　勇吉　235
外国人に対する防災意識アンケート調査の分析　―多言語景観研究・多言語表示研究の一環として―　董　艶秋・峪口　有香子　240
二者間の会話における時間軸移動によるテーマ展開について　～ラジオパーソナリティとリスナーとの会話をもとに～　宮本　淳子　251
接続詞「でも」の会話分析研究　―悩みの語りに対する理解・共感の提示において―　安井　永子　262
大学生による書かれた論争への参加　―テキスト間関係の理解が果たす役割―　小林　敬一　269
人はなぜ音読をするのか　―読み能力の発達における音読の役割―　髙橋　麻衣子　275
制度的状況の会話分析に基づくマスメディア相互行為の考察　陳　趙　剛力　284
会話と活動の関係から見る会話終結　―日常追跡法による大学生の会話を中心に―　居關　友里子　※
「やさしい日本語」使用の可能性と課題点　―幼稚園の事例研究を通して　西尾　広美　293
会話における親アイデンティティ　―子どもについての知識をめぐる行為の連鎖―　戸江　哲理　302

日本大学国文学会　語文　一四三（二二・六）
日本大学国文学会　語文　一四六（二三・六）
日本大学国文学会　語文　一四七（二三・二）
日本女子大学大学院文学研究科紀要　一八（二二・三）
日本通訳翻訳学会　通訳翻訳研究　一一（二一・二）
日本通訳翻訳学会　通訳翻訳研究　一二（二一・二）
日本通訳翻訳学会　通訳翻訳研究　一二（二一・二）
日本通訳翻訳学会　通訳翻訳研究　一三（二三・二）
日本比較文化学会　比較文化研究　一〇一（二二・三）
日本比較文化学会　比較文化研究　一〇二（二二・六）
日本比較文化学会　比較文化研究　一〇四（二二・一）
日本比較文化学会　比較文化研究　一〇五（二三・一）
日本歴史言語学会　歴史言語学　二（二三・二）
北海道大学留学生センター紀要　一六（二二・二）
明治学院大学英米文学・英語学論叢　一二七（二二・二）
横浜市立大学論叢　人文科学系列　六三―二（二二・三）
立命館大学大学院言語教育情報研究科 On Language and Language Education 4（二二・三）

二　言語学

大阪大学大学院文学研究科　待兼山論叢　文化動態論篇　四六（二二・一二）
清泉女子大学人文科学研究所紀要　三四（二三・三）
天理大学学報　六四―二（二三・二）
名古屋大学大学院国際言語文化研究科言語文化論集　三四―一（二二・一〇）
日本エドワード・サピア協会研究年報　二七（二三・三）

若年層の断りの表現　―携帯メール文体分析の観点から―　齊木春香　311
漫才の構成要素と「笑い」の相関性　―ボケ・ツッコミ・表情・フリなど―　廣瀬義人　318
役割語研究の一〇年　―日本大学国文学会講演記録―　金水敏　323
母語話者はどのように語るのか　―日英語ナラティブにおける語り手の視点―　川副理美　333
身体としてのことば　―「スタイル」の限界―　定延利之　340
法廷通訳と言語イデオロギー　吉田理加　353
日本の司法通訳研究の流れ　―方法論を中心に―　水野真木子他三名　363
女ことばと翻訳　―理想の女らしさへの文化内翻訳―　古川弘子　374
日本人にとってのアドヴァイス：ポライトネス・ストラテジーの観点から　八尾紀子　386
日本語学習者のインタビューでの発話におけるポーズとフィラーの特徴　高村めぐみ　391
「丁寧化百分率」から見る接続助詞「が」「けど」類の丁寧さと従属度　丁琳　＊＊＊
発話権取得における【自己主張】キャラクターの表出について　李熙穎　＊＊＊
明治時代初期より昭和時代初期における日本指文字群の系譜　末森明夫　397
若い世代の尊敬語・謙譲語使用意識とジェンダーに関する一考察　延与由美子　415
相互行為における機能的単位について　―発話行為連鎖の視点から―　生田少子　424
言語行為としてのインフォームド・コンセント　―「情報開示モデル」から「会話モデル」へ―　石田安実　435
二言語環境における在日中国人児童二名の発話の特徴　馬晶　445
BCCWJに収められた新種の言語資料の特性について　―データ重複の諸相とコーパス使用上の注意点―　田野村忠温　457
ことばのうつわ　今野真二　七
右枝節点繰上げ構文について　岩田良治　470
言語の起源：自分自身との対話としての思考　―人工生命の観点から―　外池俊幸　＊＊＊
文化語彙の翻訳はどこまで可能か？　―『坊っちゃん』とその英訳を資料として―　霜崎實　478

日本心理学会　心理学研究　八二―六（二二・二）　遠藤香織　486
日本通訳翻訳学会　通訳翻訳研究　一二（二二・二）　阪崎満里子　489
日本歴史言語学会　歴史言語学　一（二二・二）　新石隆子　黒崎弓子　489
法と言語学会　法と言語　一（二三・六）　松本克己　498
明治学院大学教養教育センター紀要　カルチュール　七―一（二三・三）　首藤佐智子　池邉瑞和　508
日本語版リーディングスパンテストにおける方略利用の個人差　遠藤香織　486
日本語発話の解釈：ＣＭＭ理論の日英通訳指導への応用　新崎隆子　石黒弓子　489
イネ・コメの比較言語学　松本克己　498
起訴状における予断排除の原則を言語学の観点から考える　―「外遊はもうかりまつせ」名誉毀損事件を題材に―　首藤佐智子　池邉瑞和　508
The syllable is not a universal prosodic unit ―A case of Japanese―　Sato, Yasushi　***

三　対照研究

朝日大学留学生別科紀要　一〇（二三・三）　木下謙朗　514
宇都宮大学国際学部研究論集　三五（二三・二）　范喜春　521
海山文化研究所　対照言語学研究　二二（二二・二）　万礼　527
海山文化研究所　対照言語学研究　二三（二三・二）　李占軍　533
海山文化研究所　対照言語学研究　二三（二三・二）　賈黎黎　540
大阪大学 OUPEL; Osaka University Papers in English Linguistics 16（二三・九）　RITSUKO KAMEYAMA　545
関西学院大学言語教育研究センター　言語と文化　一五（二二・三）　厳廷美　562
京都外国語大学・京都外国語短期大学 Cosmica 42（二三・一）　小倉博史　569
京都外国語大学・京都外国語短期大学研究論叢　八〇（二三・一）　乙政潤　574
熊本学園大学文学・言語学論集　一九―二（二二・二）　李珊　585
高知大学留学生教育　六（二二・三）　井上優　592
神戸大学大学院国際文化学研究科　国際文化学研究　三九（二二・一）　藤濤文子　608
神戸外大論叢　六二―四（二一・一）　角田三枝　627
国立国語研究所論集　二（二一・一）　Juan Romero Díaz　617
国立国語研究所論集　三（二二・五）　角田三枝　641
実践女子大学人間社会学部紀要　八（二二・三）　高木善花　650
産出方法の違いによる形容表現の使用状況 ―韓国語母語話者と日本語母語話者の比較―　木下謙朗　514
日本語のＮＱＣ型数量表現に対応する中国語の数量表現 ―形式と意味の観点から―　范喜春　521
日本語の「いちいち」「一つ一つ」と中国語の〝一一〟の対照 特立の取り立ての中日対照研究 ―〝才〟と「こそ」を中心に―　李占軍　533
「だれひとり」「なにひとつ」と〝任何一～〟に関する対照研究 ―機能分布の角度から―　賈黎黎　540
A QUESTION-ANSWERING SYSTEM IN NEGATIVE QUESTIONS OF ENGLISH, FRENCH AND JAPANESE　RITSUKO KAMEYAMA　545
日本人と韓国人の言語行動における「ウチ、ソト、ヨソ」と「우리(ウリ)、남(ナム)」 ―主に敬語行動を例に―　厳廷美　562
比喩表現について(一四) ―フランスと日本の故事・諺・成句にみられる天候・自然現象の語彙による比喩表現を中心として―　小倉博史　569
オノマトペの伝達上の価値(二) ―物語テクストにおける日独語対照―　乙政潤　574
浅析日語中与漢語的漢字同形的形容動詞（原文は簡体字）　李珊　585
文法の対照研究と異文化理解　井上優　592
雑誌記事における翻訳方略 ―「たとえ」のイメージ(例え・譬え・比較)をどう訳すか―　藤濤文子　608
Discrepancias en las categorías léxicas del japonés y el español　Juan Romero Díaz　617
モノノとナイマデモ：節連接の五つのレベルにおける逆接と譲歩条件　角田三枝　627
節連接表現の中のモダリティ　角田三枝　641
対称詞の待遇性による使用制限 ―日本語・朝鮮語・中国語の社会言語学的対照の観点から―　高木善花　650

社会言語科学会　社会言語科学　一六―一（二三・九）
昭和女子大学近代文化研究所　学苑　八七一（二三・五）
拓殖大学大学院　言語教育研究科研究年報　一三（二三・三）
朝鮮学会　朝鮮学報　二三四（二二・七）
東北大学文学会　文化　七六―一・二（二二・九）
名古屋大学大学院　言語文化論集　三四―二（二三・二）
南山大学大学院　南山言語科学　七（二二・三）
日中言語研究と日本語教育研究会　日中言語研究と日本語教育　五（二二・一〇）
日中言語研究と日本語教育研究会　日中言語研究と日本語教育　五（二二・一〇）
日中言語研究と日本語教育研究会　日中言語研究と日本語教育　六（二三・一〇）
日中対照言語学会　日中言語対照研究論集　一五（二三・五）
日中対照言語学会　日中言語対照研究論集　一五（二三・五）
日中対照言語学会　日中言語対照研究論集　一五（二三・五）
日本大学文理学部人文科学研究所　研究紀要　八六（二三・九）
日本比較文化学会　比較文化研究　一〇二（二二・六）
日本比較文化学会　比較文化研究　一〇六（二三・三）
日本比較文化学会　比較文化研究　一〇七（二三・六）
日本文芸研究会　文芸研究―文芸・言語・思想―　一七四（二二・九）
東アジア日本語教育・日本文化研究学会　東アジア日本語教育・日本文化研究　一六（二三・三）
東アジア日本語教育・日本文化研究学会　東アジア日本語教育・日本文化研究　一六（二三・三）
東アジア日本語教育・日本文化研究学会　東アジア日本語教育・日本文化研究　一六（二三・三）

診療コミュニケーションにおける非対称性―日米比較―　大瀧祥子　658
日韓母語話者と韓国人日本語学習者の〈事態把握〉―シナリオ作成法調査の結果から―　徐珉廷　666
世界中の授受表現について―語彙体系を中心に―　鄭光峰　674
可能形式「할 수 있다／없다」の用法について―〈ちからの可能〉と〈蓋然性の可能〉―　高恩淑　681
ト条件文の日中対照実証的研究　李北林　695
「여기」と「이곳」の類義語分析―「ここ」と比較して―　李澤熊　703
日・英語の受動構造―Bowers(2010)の提案を基に―　足立季美佳　709
日中韓漢字語研究序説―「恋愛」・「生活」・「運命」をめぐって―　中川正之　717
知ルと〃知道〃　荒川清秀　721
再び「V来、V去」と「Vてくる、Vていく」について　張麟声　727
日中両言語における使役のむすびつき　高橋弥守彦　733
試論「ミル」和〃看kàn〃在時間結構上的差異（原文は簡体字）　王学群　743
日本語と中国語の指示詞の対照研究―「コンナ」類と「コウイウ」類、〃这种〃類と〃这样的〃類を例に―　杉山さやか　753
日語「助数詞―与漢語〃量詞〃的関系以及使用特征（原文は簡体字）　張麗群　761
日韓大学生の対人行動に関する比較研究―他者に対する言語行動に見られる文化的差異―　横山由香　768
日本語とシンハラ語の授受補助動詞の対照比較　R・M・サンデイア　プリヤダルシャニ　※※
日本語とモンゴル語の「目」を含む慣用句の比較研究～モンゴル語の所有接合語「нь」を中心に～　スレンジャブ　オユンズル　※※
日本語の必須条件形式について―中国語との相違を手がかりに―　李孟慶　775
日本語と中国語の再帰代名詞について―意味と用法を中心に―　金栄晶　780
日中広告言葉における対照研究―シンタックスを中心に―　趙嵐　790
日台両国のあいさつ言語行動の対照研究―校内での出会いの場面を中心に―　劉静慧　805

北方言語ネットワーク　北方言語研究　三（一三・三）

対照言語学的観点からみた相対テンスについて
―日本語及びアルタイ諸言語における形動詞を用いた従属節の分析―　風間伸次郎　814

宮城学院女子大学研究論文集　一一四（一二・六）

「かわいい」に対応する韓国語の語彙　張錫璟　827

立命館大学大学院　On Language and Language Education　4（一一・三）

日本語の事態把握の研究　―日・韓・英の対照より―　金慧源　834

＊＊……特集号・専門誌などに掲載されたために紹介にとどめた論文

＊＊＊……著作権者と連絡がとれなかったため紹介にとどめた論文

日本語学論説資料　第50号

収録論文一覧

2015年 9月30日発行

協力　大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国立国語研究所

発行　論説資料保存会
代表者　常盤浩行

〒173-0036
東京都板橋区向原3-10-2 ㈱北辰内

日本語学論説資料　第50号　発行日
第1分冊　2015年 9月30日
第2分冊　2015年 9月30日
第3分冊　2015年 9月30日
第4分冊　2015年 9月30日
第5分冊　2015年 9月30日